

障がい者の家族やサポーターを対象とした集団音楽活動体験

日時：2018年11月18日（日） 時間：9：00～10：00

場所：福岡市海の中道青少年海の家 研修室（福岡市東区）

参加者：福岡市手をつなぐ育成会保護者会幼児・学齢部会第13回 ひまわり療育
キャンプ参加の保護者とスタッフなど約12名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 1名



今回の参加型音楽会は楽しかった
ですか



- とても楽しかった
- やや楽しかった
- やや楽しなかった
- 楽しなかった
- 未回答

また参加したいですか



- 参加したい
- やや参加したい
- あまり参加したくない
- 参加したくない
- 未回答

障がい者の家族やサポーターを対象とした集団音楽活動体験

日時：2019年11月17日（日） 時間：9：00～10：00

場所：福岡市海の中道青少年海の家 研修室（福岡市東区）

参加者：福岡市手をつなぐ育成会保護者会幼児・学齢部会第14回 ひまわり療育
キャンプ参加の保護者とスタッフなど約15名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 1名

<<概要>>

福岡市手をつなぐ育成会保護者会幼児・学齢部会が毎年1度実施しているひまわり療育キャンプの参加児童の保護者とスタッフ約15名を対象にした今年度2回目の実施でした。児童とボランティアが野外活動に参加している時間を利用して、普段子どもの事ばかり考えている保護者本人が、自分自身を自由に解放できる音楽活動に参加する事で、音楽活動に参加する子どもの疑似体験をする事だけにとどまらず、保護者本人が音楽によるリラックスできる時間を経験する中で、自分自身を改めて見つめる内省の時間となることを目的に実施しました。

<<プログラム内容>>

MLAPPERS 1名による、自己紹介歌や楽器活動、身体活動などを60分程度実施しました。参加が2度目の保護者もおられて、リラックスをした雰囲気の中で実施する事ができました。

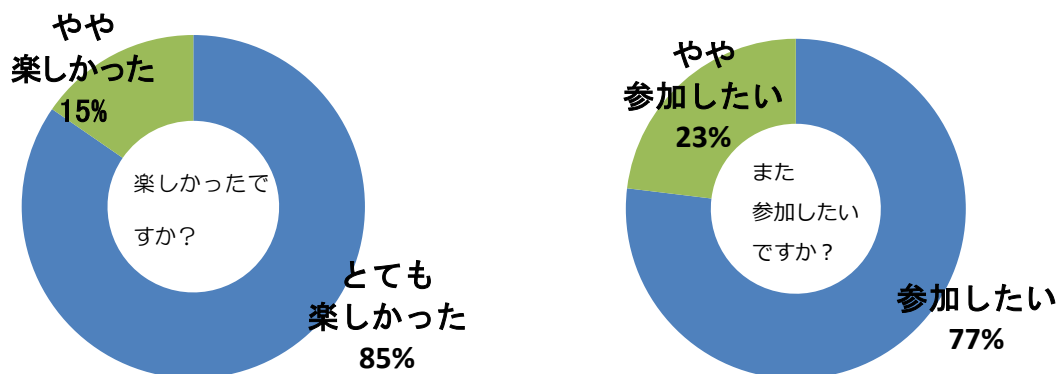


<<参加者の様子>>

音楽を使用したリラクゼーションをゆっくりと実施した後に、椅子をサークル状にセッティングして着席をして活動を実施しました。最初は、緊張した面持ちだった保護者も、プログラムが進んでいくと少しずつ慣れてきて、自由に音楽を介した自己表現の活動を楽しんでおられるようでした。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは13名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか?」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか?」という設問に対しても、100%の参加者が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 音楽を意識する良い機会になりました。音楽の力を感じました。ありがとうございました。
- ♪ 音楽活動を通して人と人の距離をすごく自然に縮めてくれたことに感動しました。
- ♪ いろんな楽器にふれることが出来て楽しかったです。
- ♪ リラクゼーションの時間だけ2時間とかやってみたいと思いました。解放の時間になりました。楽しかったです。
- ♪ 緊張どきどきもあり、子どもたちはいつもこんな感じの中で活動しているんだなあと子どもたちの気持ち、昔の気持ちを思い出しました。

<<アンケート調査結果よりの考察>>

昨年度開催後に、実施時間や場所、内容について参加者からの意見を聞き、今年度はそれらを含んだ内容となるように実施したことが、高い評価結果へと繋がったと考えられる。音楽活動は子どもだけのものではなく、内容によっては成人にも十分に楽しんでもらえる、また自身の心身の健康の為に寄与できる活動としての認識を啓発することもできたのではないかと考えています。

<<連携>>

保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった活動でした。

保護者のための音楽遊び

日時：2020年10月31日（土） 時間：14:00～15:00

場所：福岡市市民福祉プラザ 5階 軽運動室（福岡市 中央区）

参加者：5名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 2名

ボランティア：1名

<<概要>>

福岡市手をつなぐ育成会保護者会、幼児・学齢部会が、感染防止につとめながら新しい生活様式で安全にできる催しを企画し開催するとのことで、そのイベントとして実施しました。同日に実施された「親子で楽しむ音楽遊び♪」と合わせて、MLAP3年目において、初めての、そして唯一のリアル超参加型音楽イベントとなりました。



<<プログラム内容>>

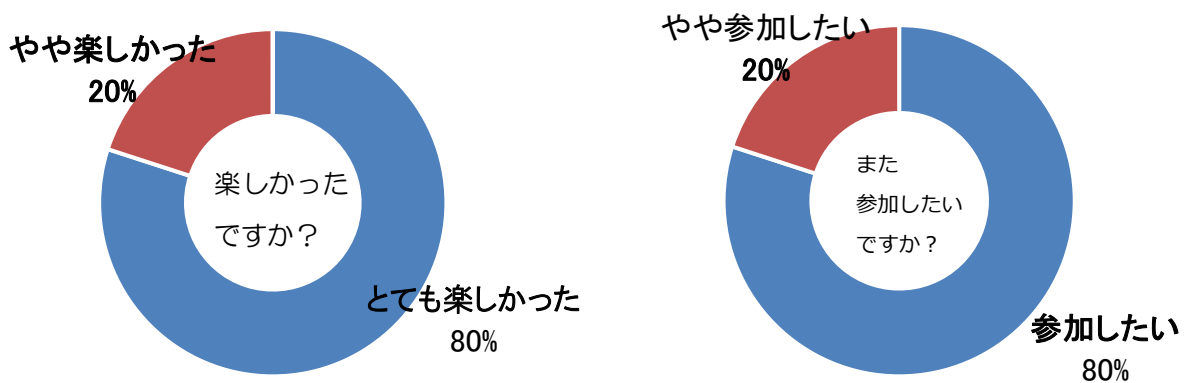
超参加型音楽イベント MLAP のファシリテーターとして2名の MLAPPERS を中心にして、新型コロナウイルス感染症防止を鑑みて歌唱活動は避け、十分な距離を保ちながらのリラクゼーション活動を中心としたストレッチやボディーパーカッション、また楽器を使用した活動などのプログラムを40分程度実施しました。保護者の音楽遊び活動中は、別室で、ボランティアと MLAPPERS とで子どもたちを見守りました。

<<参加者の様子>>

今年初めての、そして唯一のリアル MLAP に、MLAPPERS も MLAPPIES も期待100%で臨んだこともあり、保護者だけの解放感も相まって、のびのびとリラックスした表情で参加されている様子が記憶に残っています。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは5名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか?」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか?」という設問に対して、100%の参加者が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 子どもと離れた時間、楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。
- ♪ 音楽を聞くことも楽しいですが自分も参加する音楽も別の楽しみがあることに気がきました。また参加してみたいです。
- ♪ 手と足だけで夕立を表現できることに感動しました。久しぶりに音を鳴らし楽しかったです。
- ♪ 初めての経験でしたが楽しく過ごすことが出来ました。また機会があれば宜しくお願い致します。
- ♪ 音楽は音を奏でるだけでなく呼吸の延長上にある体と精神（心）が奏でていくものだということを実感できました。一期一会の出会いでセッションすることも本当に楽しかったです。また是非参加したいです。音楽を意識する良い機会になりました。



<<アンケート調査結果よりの考察>>

いつも子どもが中心の生活の中で、解放され自分を見つめる時間は、保護者にとってはレスパイトケアを兼ねた貴重な時間になったのではないのでしょうか。音楽環境の中では、保護者の気持ちも解放され、しばし弛緩した身体と心はリセットした気持ちを導き、また新たな1歩を踏み出せるエネルギーになることを願っています。また、親子での音楽遊びの経験によって、家庭にも音楽が溢れ、音楽によるコミュニケーションが、この1年の鬱積した日常の空気をフレッシュな雰囲気に変えてくれたらと願ってやみません。

<<連携>>

保護者の音楽療法及び音楽活動への理解が深まり、今後の更なる連携のきっかけになった活動でした。



超参加型音楽イベント実践報告 — ワークショップ

すべての地域住民を対象としたワークショップ |

「西短地域講座 リズムでコミュニケーション
— ドラムサークル —」

講師：DCFA 協会理事 三原 典子 先生

日時：2019年1月26日（土） 時間：11:00～12:00

場所：西日本短期大学 福浜キャンパス 体育館 （福岡市中央区）

参加者：地域住民など約50名

MLAPPERS：博多音楽療法コミュニティ LINKS 1名

DCFA 協会ドラムサークル福岡メンバー 2名

ボランティア：西日本短期大学生 10名

西日本短期大学和太鼓サークルメンバー 4名

<<概要>>

西日本短期大学の主催イベント「西短地域講座」として、すべての地域住民を対象に、DCFA 協会理事の三原典子先生にお越しいただいて、「ドラムや和太鼓を打ち叩く気持ち良さを味わいませんか？音を身体で感じてたのしもう！」をキャッチフレーズに打楽器を使用した参加型の音楽ワークショップ、「リズムでコミュニケーション—ドラムサークル—」というタイトルのワークショップを開催しました。当日は、DCFA 協会福岡メンバーの協力を得て、100個を超えるドラムやトーンチャイムを準備していただき、またボランティアメンバーを含む全音でそれら全てを会場に運び込みセッティングしました。

当日は雪もちらつくような寒い日であったにも関わらず、MLAP 連携協議委員や西日本短期大学のサポートのおかげで多くの地域の方にお集まりいただき、広い体育館でみんなで鳴らすドラムの音色に酔いしれ、トーンチャイムの音色に癒される時間となりました。

また、西日本短期大学の和太鼓サークルメンバーも途中で織り交ぜながら、華やかなワークショップとなりました。

<<参加者の様子>>

広い会場にサークル状に並べられた楽器に自然と手が伸び、参加者は思い思いにドラミングを楽しんでいるように見受けられました。決して支持的にならない三原先生のファシリテートで、自由に、そして時には参加者全員で同じタイミングで楽器を鳴らす喜びは、大きな笑顔で表現されていたのではないのでしょうか。



<<連携>>

西日本短期大学の市民講座で実施させていただけた事から、会場をお借りすることができ、広報のチラシ作成も西日本短期大学のサポートがサポートしてくださいました。また、学生も快くボランティアを担当してくださり、お互いの学びの場としてこれからも連携していくことができたらと期待が膨らみました。





西短地域公開講座
リズムでコミュニケーション
 ～ドラムサークル～

ドラムや和太鼓を打ち叩く
 気持ち良さを味わいませんか？
 音を身体で感じて楽しもう！

特別学校を卒業した若さんとともにQOL[®]を高める生涯学習の一環として
 「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」が取り組むイベントです。

※QOL(クオリティ オブ ライフ)=生活の質

平成30年度、文部科学省生涯学習推進課による学校卒業後における学びの支援に関する実践研究事業
 「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」の一環として当会が企画した
 「参加型の音楽活動を軸とした実践研究 (M L A P : MUSIC with LIFE for ALL Project)」です。



講師プロフィール



三原 典子 / 幼稚園教諭を経てヤマハ音楽教室、
 自宅教室、NPO 法人音楽療育、幼児教室講師となる。
 アーサーハル氏に師事し、ドラムサークルファシリテーター、
 REMO社公認ファシリテーターエンドースとして活動中。

日 時：2019年1月26日(土) 11:00～12:00
 場 所：西日本短期大学 福浜キャンパス 体育館
 対 象：赤ちゃんからおいしいさんおばあさんまで、誰でも参加できます。
 講 師：ドラムサークルファシリテーター協会理事 三原 典子
 ドラムサークル研究所代表
 コーディネーター：音楽療法士 米倉 裕子 (西日本短期大学非常勤講師)
 参 加 費：無料 (動きやすい服装、上履きや体育館シューズなど持参)

※参加希望の方は福岡市手をつなぐ育成会まで、お知らせください

申し込み・お問い合わせ：福岡市手をつなぐ育成会保護者会

TEL：092-713-1480 e-mail：hogsha@fiku.jp

申し込み内容：①お名前 ②連絡先 ③参加人数 申し込み締め切り：2019年11月18日

♪当日参加もOKです♪

主催：福岡市手をつなぐ育成会保護者会
 共催：社会福祉会サークル(一山 幸子)、西短太鼓サークル(川井 小百合)、博多音楽コミュニティLINKS
 後援：福岡市教育委員会(申請中)、福岡市保健福祉局(申請中)

すべての地域住民を対象としたワークショップ Ⅱ

「誰でも楽しめる音楽コミュニケーション ー音で遊ぶ、音で学ぶー」

講師：昭和音楽大学准教授 二俣 泉

日時：2019年11月8日（金） 時間：18：30～20：40

場所：香椎副都心公共施設 なみきスクエア音楽練習室（福岡市東区）

参加者：地域住民など約32名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

<<概要>>

すべての地域住民を対象に、昭和音楽大学准教授の二俣泉先生にお越しいただいて、「誰でも楽しめる音楽コミュニケーションー音で遊ぶ、音で学ぶー」というタイトルのワークショップを開催しました。内容は、先生の講義とともに、実際に声、身体、楽器を使用して参加者を巻き込んだ参加型のワークショップとなり、活気が溢れる充実した時間になりました。また、発達時期から成人になった現在までずっと音楽療法と関わってきた障がいとともにある本人と保護者の方と二俣先生との会談の時間を設け、生活の中に音楽が共にあることで、いかに日常生活が豊かになってきたか、そして現在も継続している音楽活動を通じた社会との繋がりについてのお話ししていただきました。



<<参加者の様子>>

講師の先生の指示に沿って積極的に音楽活動に参加してくださいました。楽器も沢山ディスプレイされていて、参加者の方も珍しい様々な楽器を自由に鳴らしてみたりして楽しんでいる様子でした。今回のワークショップについてMLAP 連携協議会一山委員から「・まず先生がとても明るく優しくユーモアがあること・・・音楽療法士が明るく元気に楽しんで歌っているのを見ると自分もやってみようかという気持ちになってくる ・関わり手が参加者を導いていくことができる ・子ども、障がいがある方、高齢者の方がやってみたいと思えること ・興味が湧く、意欲が出る、笑顔、声が自然に出てくる ・相手がいると、より楽しい、楽しめる、一对一の個別活動・・・関わりが深くなる、親しみが出てくる、一緒に楽しみたい・・・コミュニケーション、社会性の向上、余暇活動の充実」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは15名の方が回答してくださっています。「楽しかったですか？」という設問に対しては「楽しかった」もしくは「やや楽しかった」が100%、「また、参加したいですか？」という設問に対しても、100%の参加者が「また参加したい」もしくは「やや参加したい」と回答しています。



- ♪ 初めて参加しました。気付いたらいつも笑顔でパワーがわいてくるような会でした。ありがとうございました。
- ♪ とても楽しかったです。人生の中で楽しいものの一つに音楽があると良いなと思います。そのためにどうしたらいいのかと思います。
- ♪ 楽器をさわられて楽しかったです
- ♪ 特別な知識が無くても分かりやすく参加する楽しさがあり、来て良かったです。人との関わりの中で活かせることがありそうです。不登校の子が音楽を通して自信を取り戻した経験があります。同じ悩みを持つ親御さんのために思春期の子ら対象にも広がってほしいと思いました。
- ♪ とても楽しいひとときでした。自分自身が音楽を楽しむということを忘れていたなと感じました。あらゆる人に生涯音楽プロジェクトっていいですね。機会があればまた参加したいと思います。
- ♪ いつも大変楽しくて有意義な企画を誠にありがとうございます。非常に勉強になりました。
- ♪ 実際に身近に実践できることもたくさん教えて下さりとても参考になりました。

- ♪ いろんなことができたから楽しかったです。
- ♪ 楽しいワークショップでした。ありがとうございました。子どもたちと音楽を通じてもっとコミュニケーションをとっていかと思います。
- ♪ 二侯先生、いつも感激しています。
- ♪ 今回は飛び込みだったので少しの時間しか参加できませんでしたが、次は最初から参加してみたいです。
- ♪ 音楽療法を実際に体験することが初めてで楽しく思いました。「音」「音楽」は世界共通の言語ですね。他人を責めるばかりの現代社会と違い絶対に他人を傷つけることのない人を心地よくさせる言語ですね。

<<アンケート調査結果よりの考察>>

参加者にとっては、とても高い満足感を感じていただいたという結果になった。MLAP の活動にも興味を抱いてくださっている参加者も少なくない事が分かったので、今後このデータを MLAPPERS 発掘の活動に繋げていきたいと考えています。

<<連携>>

障がいとともにある本人やその保護者の方、地域施設利用者や地域住民の方々、また専門家の方などにも広く超参加型音楽イベント MLAP の存在を知っていただく事になり、将来 MLAPPERS として一緒に活動をしてくださる MLAP の活動に興味を持った専門家の方の啓発と発掘にも繋がっていく企画ではなかったかと考えています。





講師：二俣 泉氏

昭和音楽大学准教授
日本音楽療法学会認定
音楽療法士

MLAPとは、

Music with Life
for All Project
の愛称で、
2018年度からの文部
科学省の実践研究で
す♪

あらゆる人に
生涯音楽プロジェクト

MLAP ワークショップ II

誰でも楽しめる音楽
コミュニケーション
ー音で遊ぶ、音で学ぶー

日にち：2019-11-8(金)

時間：18:30-20:40

場所：なみきスクエア 大練習場
「JR千早駅」下車徒歩1分

参加費：無料



こどもから大人ま
で、近所の人や専
門家の方、障が
い、年齢、性別、ろ
国籍問わず、いろ
んな方に来て楽し
んでいただきたい
プログラムです！

♪参加を希望される方は申し込みをお願いします♪

申し込み・お問い合わせ：福岡市手をつなぐ育成会保護者会

TEL: 092-713-1480 EMAIL: hogsha@fiku.jp

申し込み内容：お名前・連絡先・参加人数

申し込み締め切り：2019-11-7

♪当日参加もOKです♪



主催：福岡市手をつなぐ育成会保護者会
共催：博多音楽療法コミュニティLINKS

後援：福岡市・福岡市教育委員会
コーディネーター：米倉裕子

超参加型音楽イベント — シンポジウム

すべての地域住民を対象とした学習会—シンポジウム |
「学卒後の障がいのある人の暮らしと地域とのかかわり
～音楽活動のある暮らし～」

日時：2018年12月5日（水） 時間：18:30～20:30

場所：福岡市民福祉プラザ 201号室 （福岡市中央区）

参加者：学卒後の障がいのある人の暮らしを豊かにしたいと思う地域住民など
約20名

コーディネーター：	米倉 裕子 氏	MLAP コーディネーター・音楽療法士
シンポジスト1：	水野 英尚 氏	地域生活ケアセンター小さなたね所長
シンポジスト2：	白川 弘子 氏	福岡市立特別支援学校博多高等学園 教員
シンポジスト3：	古長 美知子氏	共同生活援助事業所管理者
指定討論者：	米倉 裕子 氏	MLAP コーディネーター・音楽療法士
司会：	下山 いわ子氏	福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長

<<概要>>

障がいのある人の学卒後の暮らしや地域とのかかわりの現状を知り、課題を浮かび上がらせ、課題に対してMLAPの音楽活動が有効であるか、さらに有効にするための取り組み方を協議しました。



MLAP 学習会

シンポジウム

「学卒後の障がいのある人の暮らしと地域とのかかわり」
～音楽活動のある暮らし～

[日] 12月5日(水)

[時間] 18:30～20:30

[場所] ふくふくプラザ 201 室

概要

障がいのある人の学卒後の暮らしや地域とのかかわりの現状を知り、課題を浮かび上げさせ、課題に対して MLAP の音楽活動が有効であるか、さらに有効にするための取り組み方を協議する。

シンポジスト

水野 英尚氏 (連携協議会委員、地域生活ケアセンター小さなたね
所長、保護者)

白川 弘子氏 (福岡市立特別支援学校博多高等学園教員、博多高等学園
や今まで在籍された学校での音楽活動の実践をおし
て、卒後の障がいのある人の暮らしや生涯学習への思い
等の発表)

古長美知子氏 (共同生活援助事業所管理者、前職場の福祉事業所
で音楽活動を実践されている。卒後の障がいのある
人の暮らしや地域とのかかわり、生涯学習につ
いての現状や課題等の発表)

コーディネーター: 米倉 裕子氏 (音楽療法士)

MLAP とは、...

障がいのある人のライフステージにそ
って、自分らしく、ありのままに
良い居場所 (評価されず、それぞれの
楽しみ方が許される) となり、誰でも
参加可能な音楽活動のメンバーとなる
経験を通して精神的な安定を得なが
ら、コミュニケーション力を学習し、
自尊心を高め、自立 (自律) し、豊か
な生活を過ごしながら社会参加につな
がっていくことを目的として、障がい
のある人を含めた参加した地域住民が
お互いを 1 人の人間同士として認め合
うことを目的とした音楽プログラムモ
デル、Music with Life for All Project の
頭文字をとった呼び名です。

この活動は、文部科学省生涯学習政策
局生涯学習推進課における「学校卒業
後における障がい者の学びの支援に関
する実践研究事業：障がい者の多様な
学習活動を総合的に支援するための実
践研究」に、「障がい者の多様な学習
活動を総合的に支えるための参加型の
音楽活動を軸とした実践研究」として
2018 年に採択されています。

学卒後の障がいのある人の暮らしを豊かにしたい！
と思う方、どなたでもご参加ください！

MLAP 学習会シンポジウム「学卒後の障がいのある人の暮らしと地域とのかかわり」
～音楽活動のある暮らし～

すべての地域住民を対象としたシンポジウム Ⅱ

「音楽で変わる！音楽でつながる！

心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を

—超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋に—」

日時：2019年12月21日（土） 時間：10:00～12:00

場所：福岡市立博多小学校 表現の舞台（福岡市博多区）

参加者：地域住民など約16名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

コーディネーター：野口 信介 氏 福岡市発達教育センター所長

シンポジスト1： 日隈 富貴雄氏 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会

指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長

シンポジスト2： 中村 成吾 氏 福岡大学3年同大学ボランティアサークル元在籍

シンポジスト3： 大神 和恵 氏 重度の知的障がいのある子どもをもつ保護者

シンポジスト4： 下山 大地 氏 重度の知的障がいのある本人

指定討論者： 米倉 裕子 氏 MLAP コーディネーター・音楽療法士

司会： 下山 いわ子氏 福岡市手をつなぐ育成会保護者会長



<<概要>>

すべての地域住民を対象に、コーディネーターに福岡市発達教育センター所長の野口信介氏、指定討論者としてMLAP コーディネーター・音楽療法士の米倉裕子氏を置き「音楽で変わる！音楽でつながる！心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を一超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋に一」というテーマでシンポジウムを開催しました。

1人目のシンポジストとして、指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長日隈富貴雄氏より、今年度における超参加型音楽イベント MLAP と施設利用者との出会いから、継続して MLAP に参加することによる施設利用者の行動の変化についての報告をしていただきました。利用者が日頃見せない積極的な姿勢を見せたり、聴覚障がいのある方は最初は全く興味を示さなかったが、一度体験した後は、とても楽しかったのもう一度体験したいと変わり、利用者の方が MLAP の活動を心待ちにするようになったという様子を映像で紹介されました。また、課題としてこの実践研究の期間終了後をどのように実践していくのか、例えば申込の窓口はどこにするのか、謝礼はどうするのか、など課題の提言もありました。

2人目のシンポジストとして、福岡大学3年同大学ボランティアサークル元在籍の中村成吾氏より、MLAP の活動にボランティアとして参加したその経験から本人の思いについて述べていただきました。ボランティアで障がい者とかかわるまでは、障がい者を避けていたところがあったが、MLAP をはじめいろいろなところでボランティア活動をして障がいのある人たちとかかわって、知ることで、自分たちと変わらないことや、子どもたちが MLAP をとおして成長する姿をみていると、今まで障がい者とは高い壁があると感じていたものが低くなり、一緒に活動することが楽しくなった、障がいのある人たちが MLAP をとおしてコミュニケーション力が高まるというような成長を感じるとともに、自分自身の包容力がついていするなど、人として成長を感じている、今後、社会に出ても今の活動が役に立つと思う、という発表でした。また、障がい者を知らないと避けてしまうこともわかるので、MLAP のように自然と障がい者と知り合える場は非常に意義がある、との発言もありました。

3目のシンポジストとして、重度の知的障がいのある子どもをもつ保護者である大神和恵氏より、ご家族の不幸な出来事でご本人の気持ちが落ちこんでいる時にも、継続して参加している音楽療法のグループ活動には休まずに行く事ができた、というエピソードをお話ししてくださいました。学校や家庭でも様々な要因で落ち着かない状態であっても、MLAP の参加は、本人も意欲的になり、落ち着いて楽しんでいる様子が見られる、ただ、今は保護者が連れて行って参加できるが、保護者が連れていけなくなった時でも参加ができるように身近な場所で、安心して参加できるような場が広がることを願っている、という発表でした。

4人目のシンポジストとして、重度の知的障がいのあるご本人の下山大地氏より、継続して参加している音楽療法のグループ活動や超参加型音楽イベント MLAP にボランティアとして参加している気持ちと、これからも継続して活動をしていきたい、という気持ちを話してくださいました。

参加者からも、MLAP のような場が広がることを願っている、そのためには、行政や地域が障がい者と知り合い、協力し合うことが必要などの意見や感想がありました。

最後に、コーディネーターの野口信介氏よりまとめとして、音楽というツールや MLAP の実践活動の有用性は明らかであったので、この MLAP の活動が、多くの人に周知され、いろいろな人が連携し、身近な場所で MLAP が実践されるようになると、人と人とのかけ橋となれるのではないかと想像できる、研究事業としては、この想像を実現するように根拠をもとに実証できるよう、実践を計画的に広げ進めなければならない、と締めくくられました。

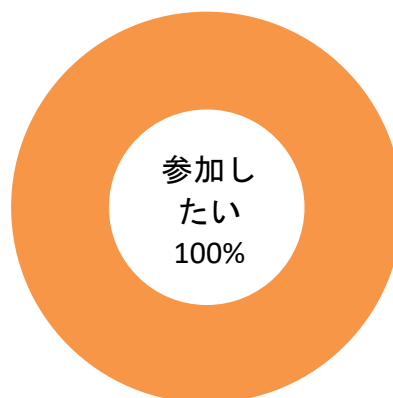
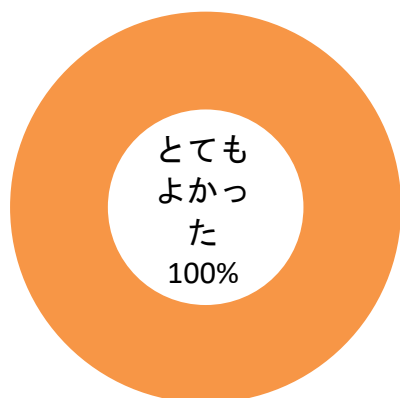


<<参加者の様子>>

参加者は15名ほどで、みなさんとても熱心に報告を聞いて活発な意見を出してくださいました。このワークショップについて MLAP 連携協議会一山委員から「・発語が難しい息子さんが安心して参加できる場である ・非常に辛い状況に置かれていても、MLAP に落ち着いて参加できる ・親御さん、家族、息子さんご本人にとって守られる場所 ・全ての人たちにとって有意義な場所 ・障がいがある方と初めて交流してとても勉強になった」とのコメントがありました。

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは12名の方が回答してくださっています。シンポジウムが良かったと答えた方が100%で、超参加型音楽イベント MLAP に参加したいと答えた方も100%でした



- ♪ このような活動があると今回初めて知りました。ワークショップに少しですが参加できて楽しかったです。まずは口コミで広めたいと思いました。ホームページもあるといいですね。(あったらすみません。)
- ♪ 表現の舞台はスクリーンが大きくて見やすく自由に着座できるのも堅苦しくないシンポジウムになって良かった(ちょっと冷えましたが)。楽しむことが大事。継続することが障がい者や地域にとってもプラスになる。広げる、

続けるための発展的な課題を知ることが出来た。

- ♪ またたくさん地域で催しが開催されることを望みます。
- ♪ MLAPに参加した学生達が次回の活動参加を楽しみにしておりました。いつもありがとうございます。
- ♪ 初めて参加しました。初めて知ったのでHPとかあると拝見したいです。
- ♪ 様々な分野のパネラーの方のお話が伺えてMLAPについて理解が深まりました。ありがとうございました。
- ♪ もっと多くの方が参加されたらと思いました。
- ♪ 地域共生社会作り具体的なツールになり得ると感じる。音楽の力はすごい！

<<アンケート調査結果よりの考察>>

超参加型音楽イベント MLAP に興味があるかもしくは既にかかわった経験のある方が来てくださっていたせいもあり、高い評価をもらえたと考えられます。



<<連携>>

実際に超参加型音楽イベント MLAP に様々な形で参加してくださった方たちやその施設の方からの報告であったことから、誰でも参加可能な音楽イベントを介した共生社会の実現という MLAP の方向性もしっかりと見据える事が再確認できて、連携の糸が更に強くなったように感じました。



2019年12月21日(土) ←

文部科学省実践研究事業 ←

MLAP シンポジウム 2019 ↓

『音楽で変わる！音楽でつながる！』 ←

心地よい地域共生社会の ←

コミュニティ構築を ↓

超参加型音楽イベント ←

MLAP が かけ橋に ←

場所：福岡市立博多小学校表現の舞台 ←

時間：午前10時～12時まで ←

参加無料 ←

【コーディネーター】 ←

福岡市発達教育センター所長 ←

野口 信介 氏 ←

MLAPとは ←

障がいのあるなしにかかわらず、 ←

みんなが自分自身とお互いを尊重し合える社会を願っ ←

て、昨年度から文部科学省の「障害者の生涯学習実 ←

践研究事業」においての『あらゆる人に生涯音楽プロジ ←

ェクト MLAP (Music With Life All Project) 実践 ←

事業です。MLAP は、障がいや音楽経験の有無、年 ←

齢、性別、国籍にかかわらずだれもが参加でき、その人 ←

の参加の仕方を尊重する参加型音楽活動です。 ←

障がいのある人やだれもが、豊かな地域生活を送るため ←

に、音楽活動がかけ橋となり、心地よい共生社会のコミ ←

ュニティ構築のツールとなるには。 ←

一緒に考えてみませんか。 ←

指定討論者 ←

[米倉 裕子 氏] ←
音楽療法士 ←

シンポジスト ←

[日隈 富貴雄 氏] ←
社会福祉法人福岡市 ←
手をつなぐ育成会 ←
指定障がい福祉サービス ←
ひまわりパーク上牟田施設長 ←

[中村 成吾 氏] ←
福岡大学3年生 ←
元ボランティアサークル在籍 ←

[大神 和恵 氏] ←
重度の知的障がいの ←
ある子どもをもつ ←
保護者 ←

[下山 大地] ←
重度の知的障がいの ←
あるご本人 ←

主催：福岡市手をつなぐ育成会 ←
保護者会 ←

申込締切：12月20日 ←

当日参加もOK ←

電話：092-713-1480 ←

e-mail ←
hogsha@fiku.jp ←

後援 福岡市教育委員会・福岡市 ←

すべての地域住民を対象としたシンポジウム Ⅲ

「MLAP シンポジウム2020

音楽で変わる！音楽でつながる！

心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を

— 超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋に —

日時：2020年11月29日（日） 時間：10:00～12:30

場所：福岡市民福祉プラザ 502・503研修室（福岡市中央区）

及び オンライン参加

参加者：会場参加 福岡市議会副議長、地域住民、障がいのあるご本人、福祉
事業所・幼児施設職員など 27名、 オンライン参加 9名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

コーディネーター：野口 信介 氏 福岡市立東福岡特別支援学校長

シンポジスト1： 日隈 富貴雄氏 元社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会
指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長

シンポジスト2： 牟田 智佳 氏 福岡市博多区保健福祉センター福祉・保険介護保
険課長

シンポジスト3： 日高 徹 氏 福岡市立屋形原特別支援学校長

シンポジスト4： 下山 いわ子氏 重度の知的障がいのある子どもの保護者

実践報告： 米倉 裕子 氏 MLAP コーディネーター・音楽療法士

司会： 本山 悦子 氏 福岡市手をつなぐ育成会保護者副会長



<<概要>>

すべての地域住民を対象に、「音楽で変わる！音楽でつながる！心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を一超参加型音楽イベント MLAP がかけ橋にー」というテーマでシンポジウムを開催しました。過去2回実施したシンポジウムと大きく違う点は、今年度は会場参加に加えてオンライン参加の方もおられたということです。オンライン効果もあったのか、過去最高のシンポジウムの参加人数でした。

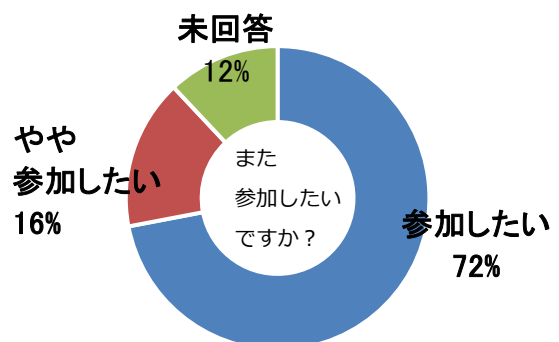
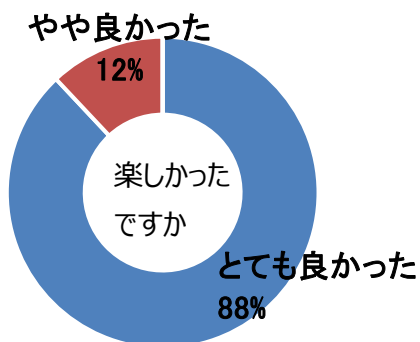
シンポジウムでは、コーディネーターに福岡市立東福岡特別支援学校長の野口信介氏、シンポジストに元社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長の日隈富貴雄氏、福岡市博多区保健福祉センター福祉・保険介護保険課長の牟田智佳氏、福岡市立屋形原特別支援学校長の日高徹氏、重度の知的障がいのある子どもをつなぐ育成会保護者副会長の本山悦子氏にお願いをしました。

MLAP コーディネーターの米倉裕子氏の実践報告の後、それぞれのシンポジストが施設の立場から、保護者の立場から、学校関係者の立場から、行政関係者の立場から MLAP の良さ・価値・参加して課題だと感じていること・運営側の難しさ・参加者の難しさ等についての意見を述べた後に、質問形式によるディスカッションが展開されました。会場からの意見やコメントなども加わり、活気がある中にも和気あいあいとした明るい雰囲気の中、シンポジウムの幕が降りたように感じました。



前日の会場準備の様子

<<アンケート調査結果>>



終了後のアンケートは25名の方が回答してくださっています。シンポジウムが「良かった」、もしくは「やや良かった」と答えた方合わせて100%で、超参加型音楽イベント MLAP に参加したいと答えた方は、「参加したい」と「やや参加したい」と答えた方合わせて88%でした。

- ♪ MLAP の今後について様々な意見が聴けて良かったです。ムラッパーとしてこれからも活動を続けていければと思います。貴重な時間をありがとうございました。
- ♪ 実際に撮影した動画が流れ、会場の皆さんの行動が変化していること、動画を撮って良かったなと思いました。(最初は動画を撮ることに抵抗がありました...) 改めて MLAP の活動、音楽がなぜこのプロジェクトを動かしているのか、現状と共に理解することが出来ました。今後、今日のシンポジウムをもとに活動を見直しながら実施していけたらと思います。
- ♪ コロナ禍で活動の場を求めている演奏家も多くおられると思うのでコラボでやって障がいのない方にも興味を持ってもらうのはどうでしょうか。PTA の研修、講演などで MLAP を取り入れ、保護者も子どもも楽しめる障がいのある方とも交流するというのはどうでしょうか？
- ♪ 今後も末長く MLAP が続いていく役割が大きいと思いました。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。西短会場ご活用ください。
- ♪ 三年間の活動の振り返り、今後の課題の確認、共有ができて良かったです。MLAP を広めていきたいと思います。
- ♪ 友人からは MLAP のことを聞いていましたが、今回シンポジウムに参加してみて障がいのある息子と障がいのないきょうだい児 2 人とも楽しめそうな内容だと思ったので是非参加したいと思います。また自身が就労継続支援 B 型の作業降りますので所に務めておりますので、レクレーションなどで他の職員へ紹介したいと思います。
- ♪ ありがとうございました。私もムラッパーズの仲間入りができるように学んでいきたいと思います。
- ♪ 初めて知る事が多くありがたかったです。私は未就学児に関わっているのですが、小さな子どもでも楽しめそうだと感じました。保育園や幼稚園の頃からの入りもありだと思いました。“はじめの一歩”としては公園など野外もありかな...?!と。天候には左右されますけど。
- ♪ 初めて参加したのですが、正直まだ理解できていません。今後機会があれば研修会等に参加して少しでも分かるように勉強していきたいです。
- ♪ 私前回一山先生からの呼びかけでふくふくプラザの 1F で参加させて頂きました。私も長年ボランティアに参加して来ましたが、シンポジウム 2020 参加も楽しい日を過ごさせていただきました。また違ったことを聞くことが出来ました。勉強になりました。
- ♪ 公民館講堂を活用して近隣の障がい通所施設の方や地域高齢の方々も含めて MLAP 音楽会が催せたらいいのと思っています。(現実にやられているのかも)
- ♪ 公民館での活動は意義があると思います。
- ♪ 息子が 5 歳で発達障がいです。保育園に通っていますが音楽発表会があり参加できずにいます。音楽を楽しむというよりはさせられる、教えられて間違えると怒られる、見られるのが不安、先生が怖い...と。皆で集まり楽器が用意されていると逃げてしまうようになりました。ムラップに保育園に来て欲しいです。

- ♪ 留守家庭子ども会の支援員をしているので、各小学校の中に留守家庭子ども会も入れてもらいたいと思いました。学校だと大規模になりすぎるかもしれないし、どこかの学年だけになるかもしれませんが、留守家庭は1～6年がいて支援級の子やいわゆるグレーゾーンの子もいます。子ども未来局に是非MLAPを伝えて活用をお願いして欲しいと思います。
- ♪ お誘いいただいたきっかけで参加しましたが、とても感謝しています。音楽の楽しみで人と繋がるという考えにとっても共感できました。私は今宮崎、都城のろう者の集まりでミニバレーをやっています。私自身はバスケット、スケボー、釣りなど、楽しいことをするのがとても好きです。難しいこともたくさんありますが、上手くできたと思えた時が、一番楽しいと思える瞬間だと感じています。音楽を使った楽しみをろう者のみんなに伝えて一緒に楽しめたらと思います。
- ♪ 今回MLAPの活動を初めて知りました。“音楽を通してコミュニケーション・関わりの楽しさを学べる”といった視点は気に留めた事がなかったので、ハッとさせられました。

<<アンケート調査結果よりの考察>>

昨年度に比べて参加者が多かったせいか、多様な意見を聴くことができました。概ね感触が良く、サポート的な意見が多かった様に感じました。ひとつひとつの意見を大切に受け止めて、今後の活動に生かしていきたいと感じています。また、その他の感想として、感染症対策がされており、安心して参加できた、や、難聴であったが、チャットで対応してもらい、参加できて良かった。また、リモートに慣れてなかったが、対応してもらえて、参加することができて良かった、などの今年度のコロナ禍ならではのご意見もいただくことができました。

<<連携>>

教育現場でのカリキュラムや青年学級での活用などに取り入れることで、卒後の活動につながるのではないかと、という具体的な意見や公民館とPTAとの併催だと広まるのでは、といった認知度を上げるために有効なこれからの連携についての意見を大切に、ひとつひとつ実現していけたらと感じました。



第3回文部科学省実践研究事業

MLAPシンポジウム2020

音楽で変わる！ 音楽でつながる！

心地よい地域共生社会のコミュニティ構築を
超参加型音楽イベントMLAPがかけ橋に

参加費無料

■日時 2020年**11月29日**（日） 10:00～12:30

■会場 ふくふくプラザ 502・503研修室（福岡市中央区荒戸3-3-39）

■定員 新型コロナ感染防止対策のため
会場での参加は先着**50名**、オンライン参加もOK

申込締切
11月27日

実践報告



米倉 裕子 氏

日本音楽療法学会認定
音楽療法士
米国音楽療法士
MLAPコーディネーター



MLAPの様子を
すこしだけ



コーディネーター



野口 信介 氏

福岡市立東福岡
特別支援学校校長

シンポジスト



日隈 高真雄 氏

元指定障がい福祉
サービス事業所
施設長



牟田 智佳 氏

博多区保健福祉セ
ンター福祉・介護
保険課長



日高 徹 氏

福岡市立厚形障
特別支援学校校長



下山 いわ子 氏

康度の知的障がい
のある子どもの
保護者

「お問い合わせ・お申込み」

主催：福岡市手をつなく育成会保護者会 **必ず申し込みをお願いします。**
オンライン参加をご希望の方は下記アドレスまで メールで申し込みをお願いします。

TEL 092-713-1480

MAIL hogsha@fiku.jp

共催：博多音楽療法コミュニティLINKS

後援：福岡市教育委員会 社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 社会福祉法人福岡市手をつなく育成会

コンファレンス

令和2年度「共に学び、共に生きる共生社会コンファレンス」
(九州・沖縄ブロック)
「誰もが、共に学び、生きる社会」を創るために、
私たち一人一人にできること」

日時：2021年1月23日(土) 時間：10:00~16:00

場所：オンライン

参加者：文部科学省 障がい者学習支援推進室

宮崎県 教育庁生涯学習課

霧島おむすび自然学校(宮崎県小林市)

株式会社グローバル点クリーン(宮崎県日向市)

長崎大学医学部保健学科(長崎県)

福岡市手をつなぐ育成会保護者会(福岡県)

九州大学大学院人間環境学研究院 教授 岡 幸江 氏

主催：宮崎県、文部科学省

<<概要>>

障がいの有無によって分け隔てられることなく、誰もが生涯にわたって楽しみや生きがいのある生活を追求できる社会、誰とでも学び合うことができる社会を創るために、私たちはそれぞれの立場で何ができるのかを、実践発表やトーク・セッションをもとに、「学校卒業後の障がいのある人の生涯学習」の充実について、参加者の皆さんと共に考える1日というキャッチフレーズで、宮崎県と文部科学省主催でオンラインで実施されたコンファレンスに、MLAPコーディネーターの米倉裕子氏がMLAPの実践発表として、「儘でいい！ 儘がいい！ 超参加型音楽活動 MLAP の実践報告ーダーバーシティからインクルージョンへ！ バウンダリーからの解放感を体験しながら誰でも誰とでも楽しく学べるやみつき必死の超参加型音楽活動 MLAP の3年間の実践報告と、ネクストステージに向けてのパラダイムを提案するー」のタイトルで実践報告を担当し、福岡市手をつなぐ育成会保護者会長の下山いわ子氏が、「擬似体験ミニ講座ーいろいろな感じ方を感じてみようー」を担当しました。

オンラインによる実施で、今回は西日本短期大学のご協力をいただいて、一山委員、山本委員のサポートの元で、コンファレンス参加が可能になりました。

参加者の見つめる方向が一緒だったせいか、参加されている皆さんの温かい雰囲気画面の向こうから伝わってくるような、そんなコンファレンスだったように感じました。超参加型音楽活動 MLAP も下山氏の擬似体験の評判もアンケートを見るとポジティブに受け入れてくださっている方が多い様に感じました。オンラインの良いところは、想像もしなかったような遠隔の方が MLAP に興味を持ってくださってコメントをくださったという広報力の凄さでしょうか。また、MLAP 動画を観ながら一緒に身体を動かして下さっていたコンファレンスに参加していた方全員が、その瞬間は画面の向こうで一緒に「MLAPPIES」になっていたんだろうな、と想像すると嬉しくなりました。

コンファレンス参加者の皆さま、また、宮崎県の担当の皆さま、大変お疲れ様でした。これを期にこれからもどうぞよろしく願いいたします。



<<「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」の発表に対する感想、メッセージ等>>

【実践発表に対して】

- ♪ ムラッピー！とても楽しそうだと思いました。障がいの有無に関わらず音楽に関われる場が設けられていて、生涯学習の機会の提供だけでなく、地域の人たちとのネットワークづくりにも寄与していて、とても素敵な活動だと感じました。
- ♪ 音楽を通して支援の輪を広げようとしていることがよく分かった。
- ♪ 音楽療法の進化系。
- ♪ 毎日多忙な生活を送っていらっしゃると思いますが、障がいについて社会に理解を深めてもらうための活動に活発に意欲的に取り組まれており、感銘を受けました。もっともっと実際の活動を知りたいと思いました
- ♪ 音を楽しんでいる姿に感動した。
- ♪ むらっぴー！で始まって音楽を通して交流や育成をされているスタッフのみなさん、熱いものを感じました。これからも頑張ってくださいと思います。
- ♪ 参加された方が皆、楽しかったと感じられるところが素晴らしいと思います。

- ♪ 音楽の持つ可能性について深く考えるきっかけとなりました。コロナ禍の中、活動にも制限があり大変だと思いません。一日も早く収束しみんなで笑い合える日がきますように。
- ♪ 音楽でつながる大切さを改めて知った。音楽の大切さを今まで軽く見ていたので、今後はしっかりと見つめ直し、みんなが笑顔になる理由を見つけようと思う。
- ♪ 音楽というみんなが楽しめるツールを用いた生涯学習で、みないきいきとしていた。行政の関与が少し気になった。
- ♪ 素晴らしい取組で、こうした取組がたくさん増える日本でありたいと思った。
- ♪ 皆で声を出して歌うことはとても前向きになれるのにコロナ禍で最も自粛対象となってしまう活動で大変残念です。
- ♪ とても素敵な活動だなあと思いました。コロナ禍の中でどう活動していくか、どんな活動ができるのか、悩ましいかと思えます。こんな時代だから必要な事、できる事を考えてみたいと思えます。
- ♪ 楽しく聞かせていただきました。音楽ってやっぱりステキですね。このコロナ禍においては様々な困難もあるかと思えます。それでもそこから動画を作成したりなどできることを模索して実行していく行動力は素晴らしいと思えました。現状に手をこまねているだけでなく、力に変えていくことができるのは日頃から続けるための努力をされている証拠だと思えます。私もパワーと笑顔をいただきました。
- ♪ 素晴らしいご報告をありがとうございました。音楽は柔軟なツールであり、どのような特性をお持ちの方も広く楽しめる人類に共通のツールであることを改めて感じました。障がい者の方々の方々の余暇活動として取り入れられることも多いですが、音楽を聴くのみにとどまってしまうなど、受け身的に楽しめる方も多い中、主体的に取り組む姿勢を大切にされていることが特に印象的でした。また、地域の方々との交流を、音楽を通して推進されているグループはまだ少ないと思えますので、今後も現在取り入れられている配信の活動も継続されて欲しいと感じました。
- ♪ 素晴らしい発表にわくわくしました。私達も是非是非取り組みたいと思いました。
- ♪ 企画者が楽しそうに取り組んでおられたのがとても印象的でした。この場があることで、救われたり、この場をとっても楽しみにしたりしている方もとても多いと思えます。音楽を通してみんなで楽しもう！というのがとても良いと思えました。
- ♪ MLAP の名前に込められた方針をしっかりと体现されているところが素晴らしいと思えます。大変なことをされているのに参加者はもちろんスタッフも楽しそうにされているのが印象的でした。
- ♪ MLAP の超参加型音楽活動の話聞いて、音楽の力の素晴らしさがたくさん詰まっていて、障がいのあるなしに関わらないMLAPの活動を聞いて楽しい気持ちになった。ありがとう！むらっぴ〜♡
- ♪ 自分たちの地域にもあったらいいと思いました。
- ♪ 実践が「障がいのある人」「障がいのない人」それぞれに変化をもたらしている点や、「音楽」というツールだからこそ「楽しみ」が多く、自然とコミュニケーションの壁を越えやすいという点など、とても良い実践だと思う。こういった取組を行政が支援する（しやすい）仕組みがあれば良いと思う。
- ♪ MLAP の超参加型、いいですね。拝見していて、ムラッパーズ（よく訓練された音楽療法士さん）の方々の力が大きいんだと感じました。音楽はどんな人でも楽しめる世界共通語ですが、周りを巻き込んでいく力によって、結果が変わってくるような気がします。いろんな地域でムラッパーズ養成講座を開いていただいて、事業終了後もこの活動が広がっていくといいなあと思いました。よろしくお願ひします。

- ♪ 音楽は素敵です。私もコロナ禍の中、いろいろな音楽を聴いて何度も涙を流し、元気になりました。障がいのあるなしに関わらず、ふれあいながら人と人がつながっていく活動をずっと続けてください。
- ♪ MLAP の取組、楽しく拝聴しました。コロナ禍の状況で非常に活動しにくいと思います。今後のすばらしい活動に期待しています。
- ♪ 音楽という、様々な壁を越えていける自由な存在が、MLAP そのものであるように思います。質問でも挙げさせていただきましたが、MLAP がもたらす成果がもっとお聞きしたかったです。
- ♪ 空気を作ることのプロが緻密な計算を基に実践をされておられて、人間愛に溢れた発表でした。刺激することで脳が活性化されて、自発的な行動が取れるようになり、しかも楽しい、気分がいいから習慣性にも繋がるいいことづくめです。動画配信は在宅者にも嬉しいです。
- ♪ 「音楽」が持つ様々な可能性を改めて感じました。何をするにも元気は大切だと改めて感じました。
- ♪ 音楽が人に与える影響、すばらしいです。無理のない参加ができる MLAP は今後も継続していくのでしょうか。地域住民とともに活動することで障がいへの理解が進むこと間違いなし、ヒントになります。
- ♪ むらっぶのユニークな活動に刺激をいただきました。音楽が人の心をほぐしたりコミュニケーションツールになったりする等さまざまな効果を見聞きます。取組の中での効果（成果）として、印象に残っているエピソードや、効果を実感した参加者の変化、活動への反響等、聞かせていただけますか？
- ♪ 歌う、演奏、ダンス、みんなが英雄でした。MLAP▶むりなく、楽に、楽しく、続けられる、プログラム、この言葉の中に、いろんな思いが詰まっているんだろうなあと感じました。音楽活動の効果や可能性を理解することができました。
- ♪ 音楽療法を行いつつ地域の活性化もしていて楽しそうだなと感じました。これからも動画を見たりしているところを取り入れていきたいです。
- ♪ 多様な方の参加があり、素晴らしい活動だと思いました。コロナの影響で密な音楽会ができなくなっていることが非常に残念ですね。参加者が主催者側になっているということも素晴らしい活動の現れだと思いました。ボランティア活動がどんどん広がっていくといいですね。
- ♪ "むらっぶ〜♪" "超"参加型音楽活動、その人なりに参加している、ではなく"超"参加している、という表現に示されているように、形は違えど、本当に皆さん生き生きと楽しそうに活動している様子が印象的でした。いかなる環境においても柔軟に対応できる音楽プログラムの魅力を感じました。宮崎でも"むらっぶ〜♪"が開催されるといいなと思います。ありがとうございました。
- ♪ 誰でも参加しやすいので、地域の方々との交流、繋がるきっかけ作りとしても良い活動だと思いました。
- ♪ 諸塚村では、保育所、幼稚園児に音楽療法を定期的に行っています。必要があれば小学生にも行っています。音楽療法は様々な効果があるとされています。改めて音楽の魅力を実感しました。
- ♪ 当事者も主催者も、保護者も、みんな楽しい。素敵だなと感じた。



<< 下山いわ子氏の擬似体験ミニ講座 >>

擬似体験ミニ講座
 ~ いろいろな感じ方を感じてみよう! ~

福岡市手をつなぐ育成会保護者会 下山 いわ子

手をつなぐ応援隊

わかりやすく、楽しい知的障がいの擬似体験を通して
 障がい理解のきっかけ作りを行っています。

障がい理解の種をまいて、
 理解の芽が社会のあちこちに
 芽吹くことを願って



【擬似体験ミニ講座に対して】

- ◆ とてもおもしろく、人それぞれの感じ方の違い、しっかりと具体的に伝えることの大切さを再確認しました。
- ◆ 「擬似体験」は勉強になりました。「ちょっと」「ちゃんと」気を付けます。熊本の方の一晚飲まず食わずの事例はとてもショッキングでしたが、有り得るなど考えさせられました。
- ◆ 「擬似体験ミニ講座」とても参考になりました。「ちゃんと」などほんとはよく使っているので、しっかり考えて対応しなければと反省しました。
- ◆ 擬似体験ミニ講座ではあいまいな表現で伝えるのではなく、相手にわかりやすい言葉で伝えることの大事さを再認識させられた。

- ◆ 疑似体験ミニ講座での「ちょっと」「ちゃんと」とてもためになりました。事業の中でも、家庭の中でも気を付けて、簡潔にわかりやすくを心がけていこうと思います。
- ◆ 理解が難しい方の感じ方をわかりやすく伝えていただき、具体的な指示が良いと分かっているながらもなかなか実践できなかった私にとってとても参考になりました。ありがとうございます。
- ◆ なるほどと感心しきりで、さらに全国に発信していただきたいと思いました。
- ◆ 言葉を絵で表すゲームで、自分が抽象的な分りにくい言葉をたくさん使っている事に気付かされました。ありがとうございました。
- ◆ 当事者の視点で考える発表がとても参考になった。
- ◆ 同じ単語でも人によって捉え方も様々であいまいな言葉が難しい知的や発達障がいの方に話すときは具体的に話すことを意識したいと思った。
- ◆ 発達障がいや知的障がい者に『あいまいな言葉』を使わないということは理解していても、それを具体的に他者に伝える事って難しいと思っていました。楽しく体験できますし、使わせてもらいます。ありがとうございました。
- ◆ 「疑似体験ミニ講座」当事者の混乱する状況を実感する体験として、とても印象に残りました。福祉教育実践で、「違いを認める」ということを伝えていますが、その前に、「違いを実感する」という学びの機会になると思いました。（早速ですが4回ほど関係者に同じ体験をしてもらいました。※障がい児者だけではないような気が…）



令和2年度 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 (九州・沖縄ブロック)



主催 宮崎県、文部科学省

日時 **令和3年1月23日(土) 10:00~16:00**

一般参加の方々は、すべて**オンラインでの参加**となります。
※ Zoomウェビナーを使用したライブ配信

大会テーマ



「誰もが、共に学び、生きる社会」を創るために、 私たち一人一人にできること

障がいの有無によって分け隔てられることなく、誰もが生涯にわたって楽しみや生きがいのある生活を追求できる社会、誰とでも学び合えることができる社会を創るために、私たちはそれぞれの立場で何ができるのでしょうか。実践発表やトーク・セッションをもとに、「学校卒業後の障がいのある人の生涯学習」の充実について、参加者の皆さんと共に考える1日にします。

プログラム

実践発表、トーク・セッションの詳細は、
裏面を御覧ください。

10:00-10:15	オープニング	
10:15-10:45	障がいのある人の 生涯学習・推進施策	文部科学省の取組(障害者学習支援推進室) 宮崎県の取組(教育庁生涯学習課)
10:55-12:00	実践発表Ⅰ	霧島おむすび自然学校(宮崎県小林市) 株式会社グローバル・クリーン(宮崎県日向市)
12:00-13:00	福岡・長崎・宮崎各県から様々な取組の紹介(動画配信等)を行う予定です。	
13:00-13:40	実践発表Ⅱ	長崎大学医学部保健学科(長崎県)
13:50-14:30	実践発表Ⅲ	福岡市手をつなぐ育成会保護者会(福岡県)
14:40-15:40	トーク・セッション	テーマ「障がいのある人が地域で学び続けるために」
15:45-16:00	クロージング	総括 (九州大学大学院人間環境学研究院 教授 岡 幸江 氏)

参加申込方法 受付期間：令和2年12月14日～令和3年1月14日まで(参加無料)

* 右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、必要事項を入力の上、送信してください。
【URL】 <https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/zhro0kiz>

* 参加申込時にメールアドレスを登録してください。開催日までに当日に向けた連絡事項(ID、パスワード、接続方法等)をメールによりお知らせします。



* QRコードは(株)サンソーウェブの登録商標です。

- ・ 参加にあたっては、インターネットに接続できる環境が必要です。
- ・ 通信環境によって配信の状況が異なることがあります。また、利用する回線の契約プランに通信容量制限や速度制限がある場合は、通信の遅延や通信料の追加等が発生する場合がありますので、御注意ください。
- ・ すべてのプログラムで、障がい(聞こえにくさ)に配慮した配信を行う予定です。
- ・ 参加申込時にいただいた個人情報は、本コンファレンス以外の目的には使用いたしません。

お問い合わせ 宮崎県教育庁生涯学習課 中野
(TEL) 0985-26-7245
(FAX) 0985-26-7342

こちらにも情報を掲載しています

みやざき学び応援ネット(宮崎県生涯学習
推進センター) コアサイト
<https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp>

障がいのある人の生涯学習の充実に向けて、実践発表とトーク・セッションを行います！

実践発表Ⅰ (10:55~12:00)

宮崎

霧島おおすび自然学校 発表者 事務局長 壹岐 博彦 氏

「野外活動の楽しさと学びと共いきいきライフ」

障がいのある人たちとの数年間にわたる野外での体験活動の成果を、学齢期の子どもや職業的生活を送る成人の体験時の様子とその変容を通じて振り返る。さらに、今後の活動の継続に向けた取組について述べる。



株式会社グローバル・クリーン 発表者 代表取締役社長 税田 和久 氏

<http://globalclean.co.jp>

「プロフェッショナル清掃から“働きがい”を！」

8年前、「宮崎クリーン部会」として、プロフェッショナル清掃をチャレンジド（障がい者）で実現する勉強会を日型2事業所で開始し、現在7事業所まで拡大。「働きがい」を感じてもらおうプロ清掃の仕事づくりを紹介する。



実践発表Ⅱ (13:00~13:40)

長崎

長崎大学医学部保健学科（長崎県） <http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/jissen-kenkyu/index.html>

発表者 長崎大学医学部保健学科教授 田中 悟郎 氏
 ビアサポートみなと副代表 片岡 史和 氏
 ビアサポートみなと運営委員 富永 遼子 氏

「仲間とともに」

長崎大学医学部保健学科は、2018年度から文部科学省の委託事業として、発達・精神障がい者を主対象に生涯学習活動を実践している。本事業の基本理念は、当事者は「経験のある専門家」及び当事者との共同創造である。



実践発表Ⅲ (13:50~14:30)

福岡

福岡市手をつなぐ育成会保護者会（福岡県） <https://www.fiku.jp/hogoshakai/index.shtml>

発表者 コーディネーター 米倉 裕子 氏

「備でいい！備がいい！超参加型音楽活動MLAPの実践報告」

ダイバーシティからインクルージョンへ！バウンダリーからの解放感を体験しながら誰とも誰とも楽しく学べるやみつき必死の超参加型音楽活動MLAPの3年間の実践報告と、ネクストステージに向けてのパラダイムを提案する。



トーク・セッション (14:40~15:40)

テーマ「障がいのある人が地域で学び続けるために」

コーディネーター 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 岡 幸江 氏

専門は社会教育学。埼玉大学准教授、九州大学准教授を経て、2021年より現職。福祉をはじめとする生活問題に向き合う人々の学習やその基盤としてのボランティア・NPOへの研究関心にはじまり、現在は地域協働や地域教育、意ある暮らしに学ぶことなど、インフォーマル教育としての学びの場づくりに関心を広げている。

登壇者 障害者自立支援センター YAH | DOみやざき 当事者スタッフ 新坂 真子 氏

1997年生まれ、特別支援学校卒業後、就労移行支援事業所を経て、現在、障害者自立支援センターYAHDOみやざきの当事者スタッフとして活動している。一人暮らしを目標に研鑽中！！

子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ 会長 外山 明美 氏

子ども3人の母親で次男は自閉症スペクトラム・知的障がい。平成13年ポン太クラブを立ち上げ、様々な活動を行っている。都城市障害者福祉推進協議会委員、北宮崎県立郡城きらりしま支援学DPFA会長、保育士、メンタルケア心理士也。 <http://ponta-miyazaki.sakura.ne.jp/>



宮崎県立小林こすもす支援学校 主幹教諭 福岡 正浩 氏

中学校から教員生活スタートし、県内各地の特別支援学校勤務を経て、現在に至る。課題指導担当(3年目)。その間、関係機関と協働して、多岐にわたる職場関係や卒業生のフォローアップに携わり、職業生活や社会生活に関する個別の対応を行ってきた。現在も、障がい者の自立と社会参加に向けた支援を行っている。

文部科学省実践研究事業2018 MLAP 実践報告会

障害者の多様な学習活動を総合的に支えるための
参加型音楽活動を軸とした実践研究

日時：2019年2月27日（水） 時間：18:00～20:00

場所：福岡市市民福祉プラザ 201会議室（福岡市 中央区）

参加者：MLAP 連携協議会委員 11名

LINKS メンバー（MLAP 連携協議会委員ではない） 1名

MLAP 関係者 1名

1. 参加者による MLAP 体験
2. はじめのことば
3. 連携協議会委員代表 挨拶
福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長 牟田智佳様
4. 連携協議会委員 紹介・自己紹介
5. 報告
(1) 経緯説明
(2) 報告
報告者：コーディネーター 米倉 裕子氏（音楽療法士）
6. 質疑応答、感想
7. 終わりのことば





連携協議会委員でMLAP体験。楽器を使ったり、楽器を使わない体験も実施しました。
委員メンバーのまじめな顔が、笑い声でいっぱいになりました。



文部科学省実践研究事業2019MLAP 実践報告会

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

基調講演「福岡市の障がい者生涯学習の現状と今後の展望」

福岡市教育委員会生涯学習課 課長 牟田 智佳 氏

日時：2020年2月8日（土） 時間：10:00～12:00

場所：福岡市市民福祉プラザホール（福岡市 中央区）

参加者：関係者・地域住民など 約70名

後援：福岡市・福岡市教育委員会

1. はじめのことば 下山 いわ子氏
2. 基調講演「福岡市の障がい者生涯学習の現状と今後の展望」
福岡市教育委員会生涯学習課 課長 牟田 智佳 氏
3. MLAP 体験 米倉 裕子 氏
4. 実践報告 米倉 裕子 氏
5. 「フレンドホームの活用と2年連続してのMLAP 実践について」
福岡市城南フレンドホーム 生活指導員 清家 信二郎氏
6. 「利用者の方や職員の方の変化」
社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会
指定障がい福祉サービスひまわりパーク上牟田施設長 日隈 富貴雄氏
7. 「MLAP に参加して」
西日本短期大学 教授 一山 幸子 氏
8. 総括 日高 徹 氏
9. 終わりのことば 下山 いわ子氏





参加して下さった方々：

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室 室長補佐

星川 正樹 氏

福岡市議会副議長

楠 正信 氏

福岡市議会議員福祉都市委員会委員長

大坪 真由美 氏

福岡市議会議員福祉都市委員会副委員長

近藤 里美 氏

福岡市議会議員教育こども委員会

池田 良子 氏

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

副島 啓一 氏

春日 祥子 氏

溝口 真奈美 氏

他、多数の皆様にご来場していただきました。

ありがとうございました。





文部科学省の実践研究事業です

2019

MLAP実践報告会

あらゆる人に生涯 音楽プロジェクト
Music with Life for All Project
MLAP (ムラップ)



[日時] ▶▶▶ 2月8日(土) AM10:00~12:00

[会場] ▶▶▶ ふくふくプラザ ホール
(福岡市中央区荒戸3-3-39)

- 基調講演：「福岡市の障がい者生涯学習の現状と今後の展望」
牟田 智佳 氏
福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長
- 実践報告 障がいの有無、音楽経験の有無、年齢、性別、
国籍 などにかかわらず、だれもが参加できる
どんな参加の仕方も尊重される**参加型の音楽活動**を
軸とした活動
- ちょっとMLAP体験

ぜひ、ご参加下さい！

お申込みは
お電話かメールで

TEL 092-713-1480 MAIL hogsha@fiku.jp 主催：福岡市手をつなぐ育成会保護者会

共

博多音楽療法コミュニティ
LINKS

後

福岡市 福岡市教育委員会

MLAP連携協議会委員

コーディネーター 米倉裕子 (音楽療法士)

・牟田智佳 (福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長) ・氷室剛 (福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課政策企画係長) ・野口信介 (福岡市発達教育センター所長) ・日高徹 (福岡市立屋形原特別支援学校校長) ・一山幸子 (西日本短期大学社会福祉学科教授) ・水野英尚 (地域生活ケアセンター小さなたね所長) ・近藤綾子 (音楽療法士、精神保健福祉士) ・小山浩俊 (福岡市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係長) ・清家信二郎 (福岡市立城南障がい者フレンドホーム生活指導員) ・天野秀樹 (D C F A 協会員) ・前田かおり (D C F A 協会員) ・日隈富貴雄 (社福) 福岡市手をつなぐ育成会ひまわりパーク上牟田施設長) ・竹内巖 (社福) 福岡市手をつなぐ育成会早良ひまわりハウス施設長)

文部科学省実践研究事業2020MLAP 実践報告会

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

MLAP がかけはしに！だれもが楽しい共生社会を願って

日時：2021年2月7日（日） 時間：10:30～12:30

場所：オンライン

参加者：関係者・地域住民など 約70名

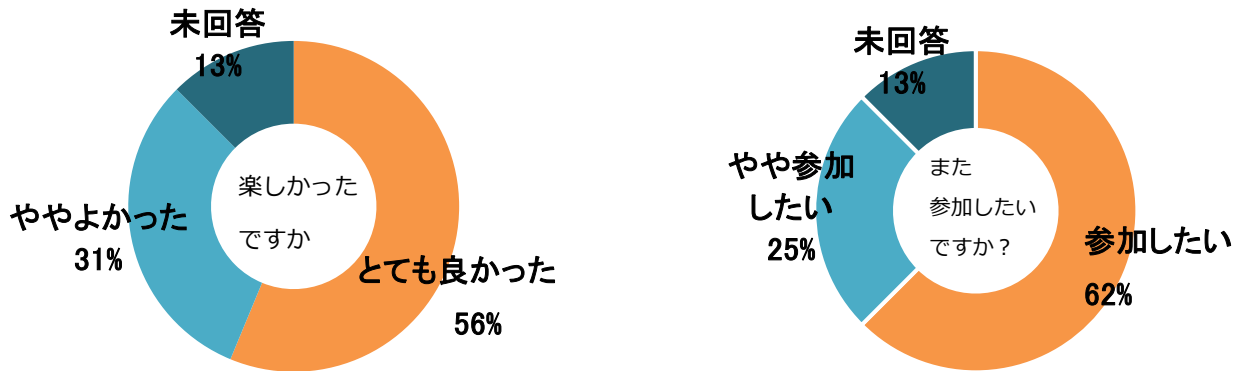
障がいのある子どもをもつ保護者	本山 悦子 氏
福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長	牟田 智佳 氏
西日本短期大学社会福祉学科教授	一山 幸子 氏
福岡市立東福岡特別支援学校長	野口 信介 氏
（社福）福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設福岡ひまわりの里施設長	石井 美紀 氏
福岡市立東屋形原特別支援学校長	日高 徹 氏
福岡市手をつなぐ育成会保護者会会長	下山 いわ子氏
MLAP コーディネーター・音楽療法士	米倉 裕子 氏

- | | |
|----------------------|---|
| 1. はじめのことば | 下山 いわ子氏 |
| 2. 実践報告・具体的なプログラムの紹介 | 米倉 裕子 氏 |
| 3. MLAP 動画体験 | |
| 4. 座談 | 司会： 下山 いわ子氏
石井 美紀 氏
一山 幸子 氏
野口 信介 氏
牟田 智佳 氏
本山 悦子 氏
米倉 裕子 氏 |
| 5. 総括 | 日高 徹 氏 |
| 6. 終わりのことば | 下山 いわ子氏 |

<<アンケート調査結果>>

終了後のアンケートは16名の方が回答してくださっています。シンポジウムが「良かった」、もしくは「やや良かった」と答えた方合わせて87%で、超参加型音楽イベント MLAP に参加したいと答えた方は、

「参加したい」と「やや参加したい」と答えた方合わせて87%でした。



♪ 本日は大変貴重な講座報告会への参加をさせていただきまして感謝申し上げます。参加理由につきまして、まだ返信できていなかったのお伝えします。

私自身今現在埼玉県知的障害者福祉施設にて音楽療法士として働いております。昨年5年続けていた高齢者施設での音楽療法から転職をし障害者音楽療法へ足を踏み入れました。障害者施設にて音楽療法をしながら、ここで音楽療法士としてできることはなんだろうとずっと考えている中で、生涯学習という言葉にいきつきました。学校から卒業をし、教育というところから福祉という中に彼らはいます。環境が変わってもずっと学び続けていくことができる環境があるといいのではないかと約一年を通して思い始めていました。その中今回の講座にたまたま行き着き、私のやりたいことへのヒントがあるのではないかと考えた次第です。

本日参加をして、自分の考えを整理したり、新たな視点での考え方などを学ぶことができました。

なかなか直接話を伺うことができない、学校長の方や福祉センターの方や福祉大学の教授の方々のお話を聴くことができ有意義な時間でした。また今後機会がありましたら、ぜひ参加をさせていただければと存じます。ありがとうございました。福岡市手をつなぐ育成会様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

♪ 登壇者の皆様のそれぞれの立場からのお話も、大変分かりやすく、また一つ一つに共感を覚えあっという間の2時間でした。これからも MLAP が社会に広がって行くこと願っています。また、機会がありましたら参加させていただきたいと思います。参加させて頂いてありがとうございました♪

♪ 以前から音楽療法というものは多少知っているつもりでしたが、さらなる発展形に触れたような気がしました。筑後市の育成会でも余暇活動の一環としての取り組みも行っていただいておりますが、例えばスポーツ教室と融合した形で音楽に合わせて体を動かすとか、そんなことも良いなあと思ったりしました。実際、音楽が好きな仲間もたくさんおられます。仲間の「好き」に「手」を加えて、「すてき」な場になったらいいなと思いました。ありがとうございました！

- ♪ 一緒に体験は楽しめたけど、音声が響いたり、途切れたりして気になって聞きづらい時があった。実際の経験を聴けるのはよかった。子供と一緒にいたけど体験のところ誘っても全く反応せずでした。>リアルを知らないから、知ってるものだったら反応したかもですネ。
- ♪ コロナ前に会場で体験した時は感動した。周りの人に伝えたいと思っている。コロナ禍の今、言っても仕方がないが、やはり WEB 画面では特に初めての人に伝わりにくいとを感じる。いつでも、どこでも簡単に参加できる事は家族や周辺の方たちにはありがたい活動だと思っている。ホールで体験している長女 42 歳は画面には興味を示さなかった。
- ♪ 先日はとても有意義な会に参加させていただきありがとうございました。MLAP の存在にもっと早く気付いていなかった…！というのが率直な感想です。ですが、これからもなんらかの形で MLAP と関わる事ができたらと感じました。動画の中で授業で使わせていただきたいアイデアもたくさんありました。
- ♪ ところどころ息子たちと一緒に参加、拝見拝聴させていただきました。

古賀先生たちの「オーシャンゼリゼ♪」の動画が流れ出すと、長男（小学 3 年生・重度知的障がい）が私の隣に座り、楽しそうに見入っていました。MLAP を立ち上げ、活動を続けてこられた皆様のお話を伺う事ができ、パワーをもらえました。この活動が継続され、広がり、音楽でいろんな人々がつながれたら素敵だな、と思っています。



- ♪ MLAP の活動を今回初めて知りました。3 年間の実践研究活動、お疲れ様でした。福岡市手をつなぐ育成会保護者会様はキャラバン隊の活動も盛んで、下山会長をはじめ、皆様の行動力にすごいなあと思うばかりです。「MLAP」を通していろんな人が集える場があり、お互いを知ることで相互理解も深まり、とてもいい活動だと思います。その反面またこの活動を続けていくという大変さもあるかと思いますが、どうかこれからコロナ禍に負けず、リモートプログラムの充実も図り、もっともっと広がっていくことを願っています。貴重な報告会に参加？拝見？させていただき、ありがとうございました。
- ♪ 実践報告は資料もあり少し簡単でよかったのではないかと思います。各々の会場の雰囲気は画面で十分わかりました。
- ♪ 報告会のオンライン配信、ありがとうございました。先生方や保護者の方のお話は具体的で分かりやすく、この研究事業の意義や、これから進むべき方向が整理され、大変意義深い時間となりました個人的にも地域でできることのヒントをたくさんいただきました。プロジェクトはこれでひとまず一区切りとなるようですが、ぜひ継続発展していけますことを願っております。本当にお疲れ様でした。



♪ 29歳、重度知的障害、発達障害の女性の保護者です。3年間で多岐に渡る取り組みをされていて素晴らしい活動報告でした。トラブルや困った事案があったのであれば具体的にお話が聞けたらもっとよかったです。卒業した支援学校には在校生卒業生問わず、参加可能なミュージックケアがありました。いきなり地域…はハードル高い人にはいい機会でした。総括で日高校長先生が触れてくださっていましたね。親の方としてはどうしても〇〇してあげてほしいという思いになり、結果を求めたり、楽しそうであることまで要求したりになりがちなのでそんな思いから解放される場であってほしいと思いました。

♪ MLAP について初めて知る事ができた。どの社会福祉の場面においても活用できると思う。実現できるようにそういうことをより深く学んでいき実践したい。

♪ 公民館を中心に MLAP を地域へ紹介する事業を考えたいと思います。「障がい」について考える座学講座は、障がいのない方に向け数知れず実施してきましたが、MLAP で共に参加することによる相互理解以上のものは期待できないようにも思います。また、MLAP が障がい者の生涯学習の視点だけではなく、すべての人にとっての生涯学習でもあるのではないかと考えます。

♪ これから、公民館やPTA など、MLAP の活用を検討してもらいやすいように「お試しプログラム（初回限定）」のようなものがあれば、いろんなところに周知しやすいなあと思っています。

例）1時間コース、参加者20名、コーディネーター、ボランティアスタッフ〇名派遣、費用〇〇円（交通費含む）

※場所の確保、参加者募集などは主催者で実施

♪ 年齢、国籍、障がい、音楽経験を超えて、「一緒にできる」楽しさがもっと広がってほしいと思います。学校や福祉施設だけでなく、地域でのイベント（例えば各区の体育館やホールなど広いスペースで、市政だよりを通じての参加募集をかけるなど）があると、音楽と体を動かす事がセットになって、「音楽はちょっと〜」という年配の方や男性も興味を持たれるのではないのでしょうか。五感と体感が密着な関わりを持つ事で、素晴らしい開放感を得られる活動だと思いますので、これからも参加していきたいですし、応援しております。

♪ 息子が急に部屋から出てきて急に動画に参加しました。たまたま居合わせた父親も驚くほどノリノリでした。





♪新聞で告知していただきました。

当日は、新聞社の方も取材に来ていただきました♪



超参加型音楽活動 **MLAP**



♪ **どこでも だれでも楽しめる活用事例紹介** ♪

Music with Life for All Project

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト

お互いを尊重し合える共生社会を願って

MLAPが かけはしに!

**オンライン配信
参加費無料**

学校で
公民館で
福祉事業所で
障がい者フレンドホームで
子どもプラザで
広場で
etc
身近な場所で!

障がいのある人も ない人も
音楽経験のない人も
年齢、国籍、性別にも関係なく
多様な人たちが
自分自身とお互いを
尊重しあって楽しめる♡

2021.2.7(日)
10:30~12:30

♪ プログラム

◆ MLAPとは。MLAP活用プログラム事例
米倉 裕子氏 音楽療法士・MLAPコーディネーター
◆ MLAPを体験しよう♪

◆ MLAPの体験談や成果、展望について座談
本山 悦子氏 (障がいのある子どもをもつ保護者)
牟田 智佳氏 (福岡市博多区保健福祉センター
福祉・介護保険課長)
一山 幸子氏 (西日本短期大学社会福祉学科教授)
野口 信介氏 (福岡市立東福岡特別支援学校長)
石井 美紀氏 ((社福) 福岡市手をつなぐ育成会
障がい者支援施設福岡ひまわりの里施設長)

◆ 総括

日高 徹氏 (福岡市立屋形原特別支援学校長)

申込み お申し込みはメールで2/5(金)まで (QRコードからも)

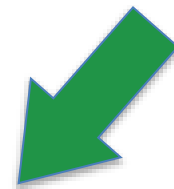
問い合わせ hogsha@fiku.jp

主催 福岡市手をつなぐ育成会保護者会 〒810-0062福岡市中央区荒戸3-3-39ふくふくプラザ4階

共催 博多音楽療法コミュニティLINKS (社福) 福岡市手をつなぐ育成会



MLAPのパムフレット



♪ 作成にあたりまして、音楽療法専修の卒業生たちにご協力いただきました♪

定例実践報告 1

障がいがある本人を対象とした個人音楽療法〈ほっぴ！〉



実施期間：2019年7月～2021年2月

実施回数：21回

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム

内日常生活訓練室（福岡市城南区）

参加者：個人を対象とした音楽療法希望者
7名（内3名・学卒者）

定例実践報告 2

障がいがある18歳以上を対象とした小グループ音楽療法「ノートン」

実施期間：2019年7月～
2021年2月

実施：21回

場所：福岡市立城南障がい者フレンド
ホーム内機能訓練室

（福岡市城南区）

参加者：小グループを対象とした音楽
療法希望者3名



社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設
福岡ひまわりの里における音楽療法（余暇活動）

MLAP としてデータ収集をした期間：2019年11月～2021年2月

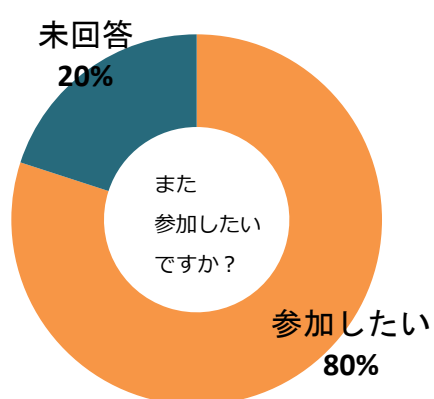
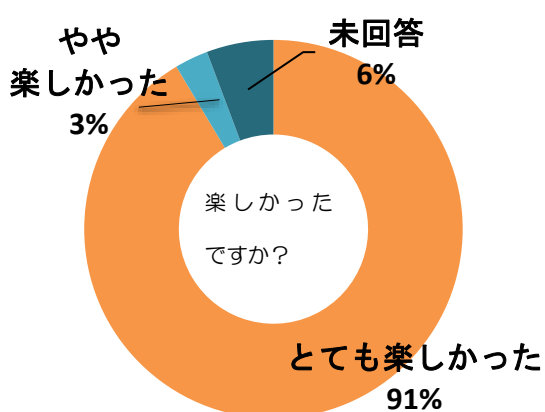
実施回数：3回

場所：社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会障がい者支援施設福岡ひまわりの里
作業室（福岡市西区）

参加者：施設利用者のうち音楽療法参加希望者 約10～12名



<<アンケート結果より>>



♪ 今年の「音楽療法は楽しかった。来年も参加したいと思います。」

♪今年度は、コロナ禍によって1度も訪問ができなかったので、ひまわりの里の皆さまに MLAP 動画を観ていただいて、アンケートに答えていただきました。♪

MLAP アンケート ～動画について～

Q1. 動画は、何をみましたか？(該当するものに○をしてください)

オーシャンゼリゼ・花は咲く・糸・たいこづくり・ぼちぼちいこか

Q2. 複数の映像の中で、利用者様が一番楽しそうだった活動はどれですか？

(該当するものに○をしてください)

オーシャンゼリゼ・花は咲く・糸・たいこづくり・ぼちぼちいこか

Q3. 利用者の方は、楽しそうでしたか？(実際の感想などがあれば、自由に記入をお願いします。)

- ・音と一緒に体を動かすことが一番好きです。
- ・手話むずかしいね。
- ・楽器の音を聞いて、「あーびっくりした。」
- ・楽しかったです。

Q4. 一緒に行っていた、職員の方は、楽しかったですか？(該当するものに○をしてください)

とても楽しかった・楽しかった・楽しくなかった・まったく楽しくなかった

Q5. また、動画を使用したいですか？(該当するものに○をしてください)

是非使用したい・使用したい・使用しない

Q6. 動画を見ているときの利用者様の様子に変化はありましたか？

(一緒におこなっていたか、じっと見ているだけだったか・・・など自由に記入をお願いします)

- ・同じ動きをしようと、画面を集中して見ていました。
- ・手話は少しむずかしかったようで、画面をみながらウトウトしてしまう利用者もいました。

Q7. その他、何かあれば、記入をお願いします。



大学生を中心としたボランティア養成講座

実施期間：2019年7月～2021年2月

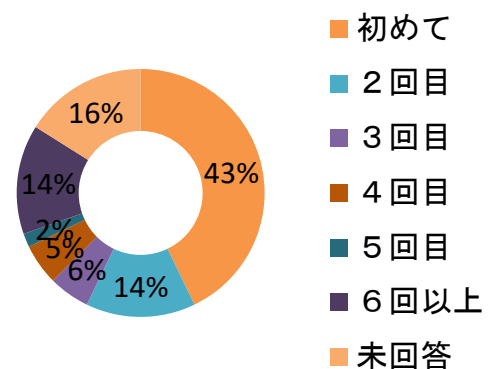
実施：13回

場所：福岡市立城南障がい者フレンドホーム 日常生活訓練室 (福岡市城南区)

対象：障がいがある小6までの児童を対象としたグループ音楽遊び「ビートン」のボランティアを対象に実施

実施期間中に、ボランティア講座に参加した人数は、延べで56名で、内6回以上参加しているメンバーは14%という結果であった。講座の内容についても、障がいがある小6までの児童を対象としたグループ音楽遊び「ビートン」のボランティアで役に立ちそうかという設問については、100%「役に立ちそう」という結果でした。また、障がいとともにある人との共生社会についての講座内容については、日常生活でも「役に立ちそう」または、「やや役に立ちそう」合わせてほぼ100%という調査結果でした。

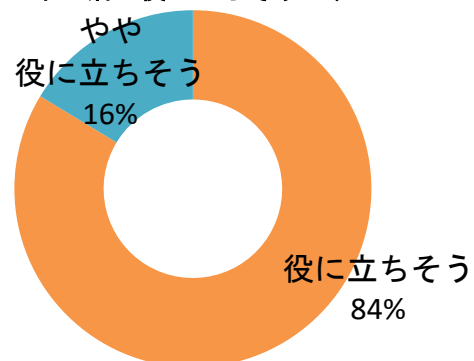
参加するのは何回目ですか



次回のボランティアで役に立ちそうですか



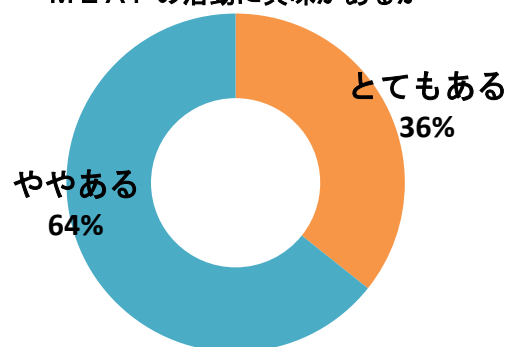
日常生活で役に立ちそうですか



MLAPの活動について「興味がある」、もしくは「やや興味がある」と回答したボランティアは合わせて100%でした。「ビートン」の活動だけではなく、これから開催予定の超参加型音楽イベント MLAPの活動への積極的な参加が期待できます。



MLAPの活動に興味があるか



<<アンケート調査結果自由表記より>>

- ♪ もっと時間を長くしても良いと思った
- ♪ 音楽は誰でものが出来るので他の色々な人と関わってみたいです。
- ♪ 初めて参加して事前準備について考えていなかったのですが次の参加では事前準備をしっかりして取り組みたいと思います。
- ♪ 接し方が分からず終わったのが悔しいです。
- ♪ 今日一緒にビートンに参加した子が目が合わなくてどうしたらいいかな?と考えていたのでよかったです。
- ♪ 自分が思っていたよりも子どもたちが元気に歌を歌っていたりダンスをしたり楽器を演奏したりしていてすごく元気でした。
- ♪ とても楽しく活動できました。
- ♪ 安全を配慮すること、周りの人を楽しませられるように視野を広げる大切さを学びました。
- ♪ 衛生面や安全面に気をつけて活動していきたいと思いました。
- ♪ 初めての参加でなれないこともありましたが私自身も一緒に楽しめたのかなと思います。
- ♪ 2回目だとまどうことも多いのですが1回1回の貴重な経験を得て反省して次回の活動に活かしていければいいなと思います。

- ♪ 子供とのより深い関係、関わりをもつ重要性を学びました。子供が何に注目しているか考えているか子供の目線で考えることが大切であると思いました。
- ♪ 今回は小さな子とのふれあいだったけどもっと広い年代の方ともふれあいをのばしていきたい。
- ♪ 子供にリードしてもらう、学生がリードするバランスが大切だと思いました。こどもたちに頼ることで子供の成長へつながると思います。
- ♪ 自分のサークルにも活かしたい
- ♪ こどもの反応一つ一つに意味があって私達の言動一つ一つにも大きな影響をもっていると感じて改めた。
- ♪ 音楽があるからこそ楽しめることもあるのでまた参加したいです。
- ♪ こどもとの仲良くなり方など色々知れたので良かった
- ♪ 私自身親戚にダウン症をもつ人がいていつもうまく関わっていないと感じるので、今回音楽を通して関わり方を学ぶことが出来た。



音楽療法士を中心とした勉強会「LINKS」



実施期間：2019年7月～2021年2月

実施：25回

場所：福岡市市民福祉プラザ内音楽室・会議室・和室など（福岡市中央区）

対象：音楽療法を教育機関で専門的に学んだ経験があり、音楽療法を実践している専門家を中心にして2007年から実施している勉強会で、名称は「博多音楽療法コミュニティーLINKS」、MLAPを実践している「Mrappers」の中心的存在、現在は9名である。

MLAP キャラクター「むらっぷう♪」



MLAP に連続して参加したひまわりパーク上牟田 利用者の変化について — ケーススタディー —

MLAP との交流を通して

福岡市手をつなぐ育成会 ひまわりパーク上牟田
施設長 日隈富貴雄

ひまわりパーク上牟田



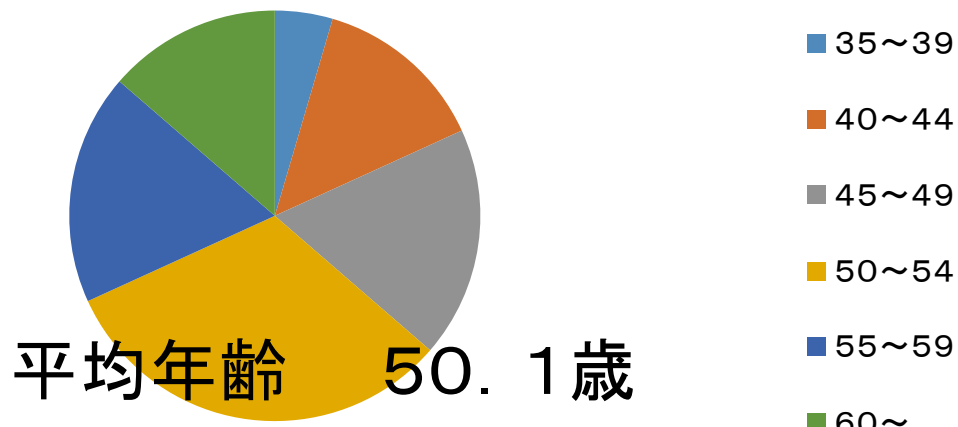
ひまわりパーク上牟田

- 就労継続支援事業A型 (移動班)
愛宕や百道の海岸清掃。
天神や博多区の公園清掃。
- 就労継続支援事業B型
様々な仕事に取り組んで工賃を得ている。
- 生活介護事業
自立に向けた訓練を重ねている。

B型の仕事



年齢構成



< 3回の実践 >

1

保護者との交流 令和元年.8.30



2

育成会交流事業 令和元年.11.14





3

上牟田地域交流 令和元年.11.17



＜職員からの質問に対する MLAP 参加利用者の答え＞

Q1.楽しかったですか。 A.楽しかった。(全員) (初回も花を楽しいの方に入れてくれました)

Q2.上牟田にまた、MLAP に来てほしいですか。 A.来てほしい。(全員)

Q3.何が楽しかったですか。 A.歌、楽器演奏、ダンス(体を動かすもの)、手話の歌

Q4.また、参加したいですか。 A.参加したい。(ほとんど)

<利用者 A さん（視覚障がい）の変化>



楽器演奏にも意欲的で、表情に笑顔が多く見られた。



楽器演奏は自分から希望。交代せず最後まで演奏。感動で泣く。

<利用者 B さん（聴覚障がい）の変化>



下を向いていた。
参加しきれっていない面を感じた



手話の歌と打楽器の振動で、気持ちも前向きに。



楽器演奏では自分から前に出た。自分から楽しむことが出来た。

○最初は、「自分は聞こえないから音楽は嫌いだ。」と言っていた。活動に否定的であった。



○手話の歌が楽しかった。太鼓の振動がよかった。

○聴覚障がいの方々のために、健常者と共有できる手話の歌やダンスを考えて欲しい。

○初めはとても抵抗があったが、楽器に触れ、体に振動を感じ、体を動かすうちに、音楽が好きになった。

MLAP の活動を心待ちにするようになった。

<<職員の感想・意見・変化>>

Q1. MLAP との交流は利用者にとって良かったですか？

A ・全員が「良かった」と回答

- ・参加型で楽しめた。一人一人が主役になれる。活動が解りやすい。どんな年代でも対応できる。音楽はきくだけではない。

Q2. MLAP の活動を通して利用者の変化はありましたか？

A ・自分から手を挙げて参加した。笑顔がたくさん見られた。

- ・MLAP の方から声をかけて頂いてから意欲的になった。
- ・何事にも積極的ではないが、楽器を持って主体的に参加していた。

Q3. MLAP との交流は続けたいですか？

A ・全員が継続的な交流を希望している。

Q4. MLAP との交流で気になることは？

A ・活動内容（選曲やプログラム等）はどのように決めているのか。

- ・相手のニーズはどのように把握されているのか。
- ・障がいの特性に合わせた対応はどのように工夫されているのか。

Q5. 今後のかかわりに関して

A ・実践研究が終わった後の連絡先・費用の問題等どうなるのか。

- ・提起的に活動しているイベント等はあるのか。
- ・どこに行けばよいのか。
- ・参加費は。



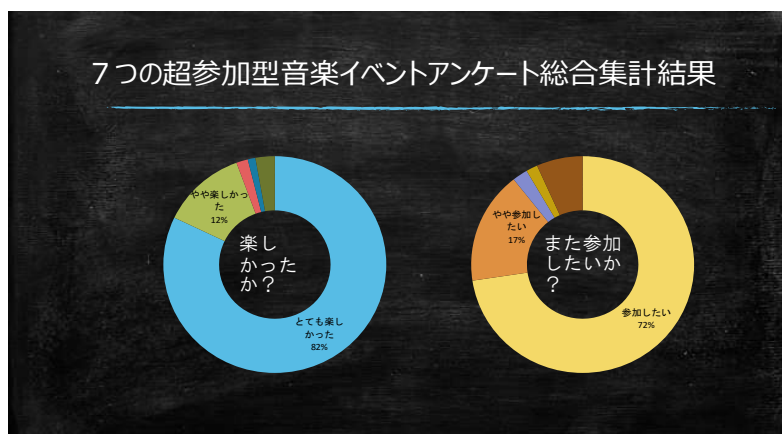
共生社会を見据えた調査結果

超参加型音楽イベント MLAP では、実施する際に必ずアンケート調査を実施しました。様々な方の参加を見込んでいるイベントであることから、アンケートのデータのとり方の工夫として筆記による記入の他にも「楽しかった」「また参加したい」と感じたら、イベントが終わった出口で、紙で作成した花を籠に入れるという方法を取り入れました。



以下に示したグラフは、2019年度に実施したワークショップとシンポジウムを除いた、7つの超参加型音楽イベント MLAP において収集したアンケートを総合して集計したグラフです。被験者には、一般地域住民、大学生、留学生、施設職員、利用者、保護者、障がいとともにある人などを含んでいます。

「楽しかったか」という設問に対しては、「楽しかった」と「やや楽しかった」を含めて、94%、また、「また参加したいか」という設問に対しては、「また、参加したい」と「やや参加したい」を含めて、89%という結果でした。

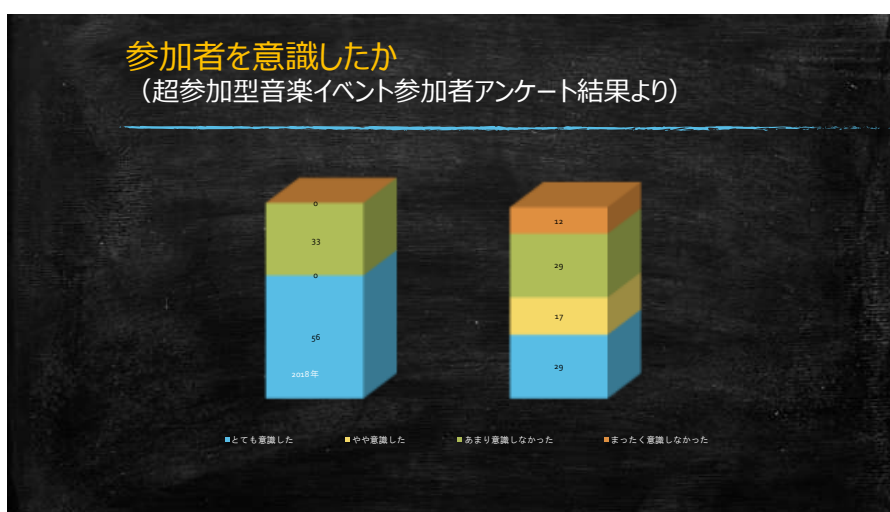


次に示すグラフは、超参加型音楽イベント MLAP に参加した人を対象にした「他の参加者を意識したか」という設問に対する回答結果です。このプロジェクトは3年間実施しましたが、今年度はコロナ禍により超参加型イベントを実施する機会が1日だけだったので、1年目の2018年度と2年目の2019年度のアンケート結果で比較をしています。

超参加型音楽活動 MLAP そのものをダイバーシティである地域社会の縮図と想定し、そこで実施される誰でも参加可能な音楽活動の参加を通して、MLAPPIES それぞれがそれぞれの方法で音楽体験を楽しみながらいつの間にかインクルージョン経験を重ねる事で、例えば超参加型音楽会 MLAP の参加者の中に、

初めて会う人、年齢差がある人、性別が違う人、障がいとともにある人、外国の人がいたとしても、それほど抵抗感なく、つまりあまり意識することなく繋がりを築くことを、音楽活動は可能にするのではないかと、この先行研究からの仮説に基づき、この設問をアンケートの中に入れることにしました。

結果は、1年目、「とても意識した」と「やや意識した」の合計56%から、2年目は46%へ減少し、1年目、「あまり意識しなかった」「まったく意識しなかった」の合計が33%、2年目は41%に増加しました。



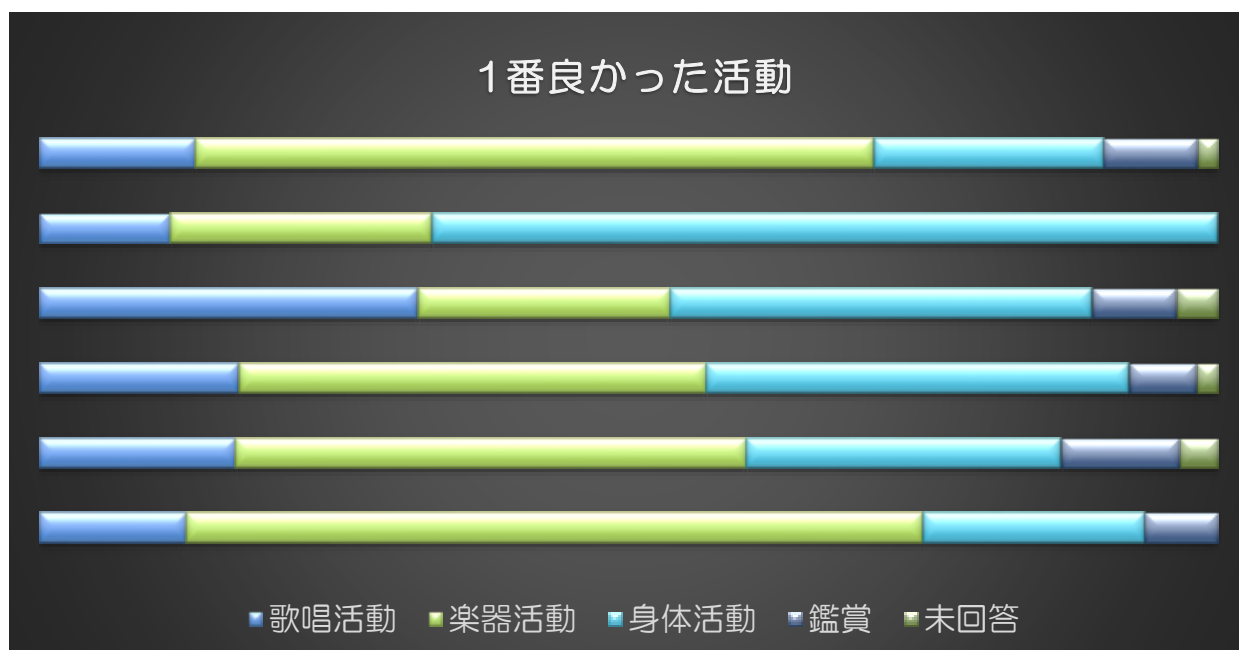
MLAPの音楽活動には、近くの人とグループになって参加する活動もあります。こちらからMLAPPIESの様子を見ていると、実際にそのような活動の場合であっても、とにかく誰であれ近くの人と一緒に笑顔で活動を楽しんでいる様子が観察できます。このことは、MLAPの音楽環境の中では、普段の社会生活の中で背負っている鎧は全く意味を持たず、MLAPPIES誰でもが、ただ音楽を楽しむ1人の人間となり得るということが言えるのかもしれませんが、それは参加者を解放感へ導いていくと考えられます。人は快と感じた経験を再び経験したいと感じ、その行動の表出頻度が増加すると、MLAPが楽しいと感じてくれたMLAPPIESはリピーターになってくれることも期待ができるのではないのでしょうか。

今回の調査では、ボランティアメンバーにも被験者になってもらったのですが、ボランティアメンバーは役割として参加者を意識する、ということがボランティアからの発言でわかったことから、今後継続して調査することがあれば、ボランティアメンバーは被験者から外す必要があることが解りました。

また、可能な場合においては、参加者の行動の変化を記録するために定点による動画撮影を実施しました。撮影された対象者が限られていたり、ほとんどの対象者がフレームから外れている事も多く、データをとるためには更なる精査が必要だと考えています。

学習プログラム構築を見据えた調査結果

超参加型音楽イベント MLAP において、最適な障がい学習のプログラムを構築する手段のひとつとして、今年度は意識的に「歌唱」「楽器」「身体」「鑑賞」の4つの音楽活動を必ず実施して、イベント終了後にどの活動が1番良かったか、というアンケート調査を実施しました。以下の6つのグラフはそれぞれのイベントにおける集計の結果を表したグラフです。



それぞれのイベントによって「1番良いと感じた活動」に差が出た理由としては、それぞれの超参加型音楽イベント MLAP 参加者の年齢、性別、し好、環境といった様々な要因による影響が考えられます。それらを踏まえた上で、調査を実施した超参加型音楽イベント MLAP の6つのイベント全ての調査結果を集計したのが次のグラフです。

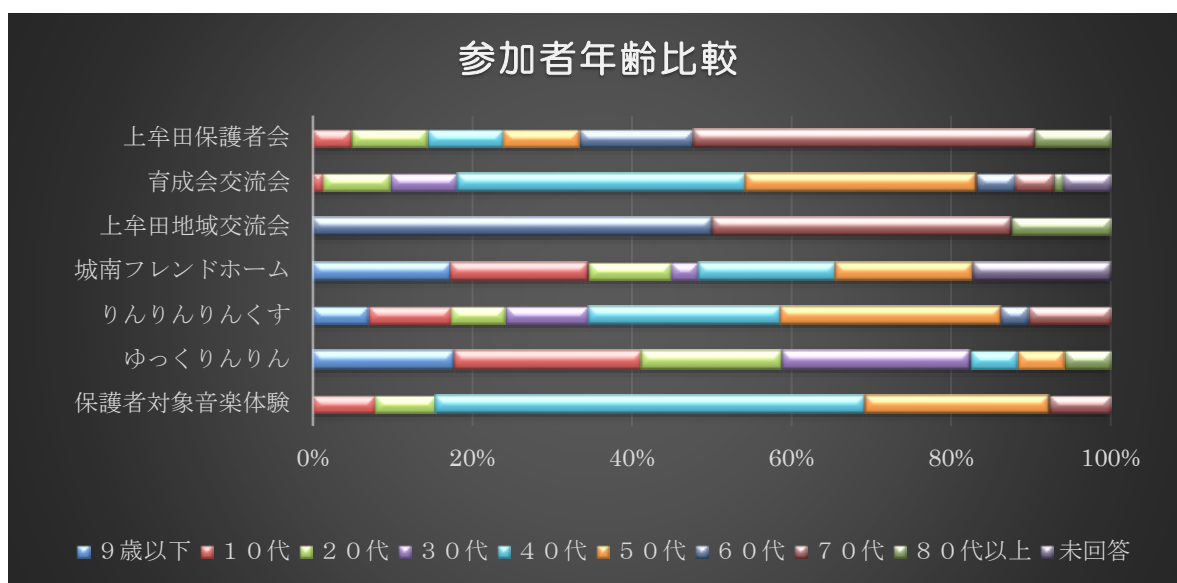


調査の結果、「歌唱」「楽器」「身体」「鑑賞」の活動の中で1番人気があったのは、「楽器」の活動であった事がわかりました。また、次に良かったと感じた活動は「身体」活動でした。この結果から考えられるのは、

おそらく「楽器」活動と「身体」活動が視覚的にも刺激があるからということから、参加者に何をする活動なのかがわかりやすいという事がいえるのではないかと考えています。

そして、「鑑賞」の活動の人气が4位だったという結果からは、やはり超参加型音楽イベントならではの、能動的な活動が、参加者には楽しんでいただけているのではないかと考えています。

次のグラフは、今年度開催した7つの超参加型音楽イベント MLAP の参加者を年齢別に分けたものを比較したグラフです。



「誰でも参加が可能である」事をキャッチコピーにしている超参加型音楽イベント MLAP らしく、オープンな環境で開催した音楽イベントの参加者の年齢層には特にばらつきがみられます。

今年度の調査結果をふまえると、今後は、人気の高い楽器活動を中心に、しかしながら他の「歌唱」、「身体」、「鑑賞」の3つの活動についても、幅広い年齢層の参加者や個性のある参加者ひとりひとりの多様なニーズにできるだけ沿えるように、また、参加者には音楽活動の中でできるだけ沢山の種類の経験をしていただけるように、バランス良く、バラエティーにとんだプログラムの構築の調査を進めていきたいと考えています。可能であれば、より効果的な生涯学習プログラム構築の為に、超参加型音楽イベント MLAP におけるプログラムの順番や活動全体のエネルギーダイナミクスと参加者のし好の相関関係についても調査を進めていければと考えています。

日本音楽療法学会 2020 年度研究発表特別大会

実施期間：2021年2月22日～2021年3月15日

場所：オンライン

今年度熊本県で開催予定であった日本音楽療法学会学術大会が、コロナ禍の影響で中止となったが、オンラインによる研究発表での開催が決まり、「あらゆる人に生涯音楽プロジェクト MLAP 実践研究経過報告—障がいとともにある人の多様な学習活動を総合的に支援するための超参加型の音楽活動を軸とした実践研究—」が、研究発表として採択され、上記期間内においてオンラインでの発表となりました。日本音楽療法学会での発表は、音楽療法士への MLAP の活動周知のみならず、MLAPPERS 発掘の場として考えていることから、今回は、規定によりスライドを10枚ほど提示するのみの発表だったことから「経過報告」としましたが、近い将来に口頭発表が可能になった際に、改めて MLAP プロジェクトの魅力を伝えていくことができると考えています。

あらゆる人に生涯音楽プロジェクト MLAP(ムラップ) Music with Life for All Project 実践研究経過報告

～障がいとともにある人の多様な学習活動を総合的に
支援するための超参加型の音楽活動を軸とした実践研究～

日本音楽療法学会 研究発表特別大会

2021-2-22 ～ 2021-3-15

押本恵・川嶋茉莉子・古賀朋香・近藤綾子・柴田佳代子・中田哲也・野田恵美・松宮仁美・米倉 裕子

超参加型音楽会<MLAP (Music with Life for All)> に関するアンケート

本日は、博多音楽療法コミュニティ LINKS による「超参加型音楽会 MLAP」にご参加くださりましてありがとうございました！是非、アンケートにご協力をお願いします！

Q1. 今回の【超参加型音楽会 MLAP】は、楽しかったですか？

とても楽しかった

やや楽しかった

やや楽しくなかった

楽しくなかった



Q2. 今回の【超参加型音楽会 MLAP】と一緒に参加された人の中に初めて会った人、年齢が離れている人、異性の人、外国の人、障がい者の人がいることを意識しましたか。

とても意識した

やや意識した

あまり意識しなかった

まったく意識しなかった

Q3. また【超参加型音楽会 MLAP】に参加したいと思いますか。

参加したい

やや参加したい

あまり参加したくない

参加したくない

Q4. 今日は誰と来ましたか？

ひとりで

友人と

家族と（構成員：

）

その他（

）

Q5. 年齢をお知らせください。

9歳以下

10代

20代

30代

40代

50代

60代

70代

80代以上

♪ 今回の【超参加型音楽会 MLAP】に対してご意見・ご感想など、ご自由にお書きください！

（紙の裏もご利用ください！）

今後の MLAP の展開

♪3年間の活動の中で培ってきた連携や経験をベースにして、これからも音楽療法の視点から、障がい児・者の発達段階に応じた個人や集団を対象にした音楽療法的アプローチ、集団音楽遊びなどを組み合わせ、専門家が障がい特性を生かす勉強会を重ね、MLAP活動を支援するボランティアの養成を図りながら、年齢・性別・国籍・障がいの有無などに関わらず地域住民の誰もが参加できるような生涯学習プログラムとしての超参加型音楽イベント MLAP を実行する為のシステムの構築と人員体制づくりを進めていけたらと考えています。

- 可能性 1 コミュニティ対象の超参加型音楽イベントの実施
 - ・実施場所の開拓
 - ・オープン型と同時にセミクローズ型も同時に実施
(継続して実施、追跡調査)

- 可能性 2 コミュニティ対象の参加型音楽イベントの特定の参加者の変化についての調査実施

- 可能性 3 4つの要素(歌唱・楽器活動・身体活動・鑑賞)をどのように組み合わせて構成していくと生涯学習プログラムとして有効に機能するのかを検証する

- 可能性 4 超参加型音楽イベントのインストラクター (MLAPPERS) の発掘・トレーニング

- 可能性 5 生涯学習プログラムとしての MLAP のために、様々な人たちとの連携を構築すること

ボランティアの感想 -MLAPに参加して-

♪ グエンティミーリンさん（西日本短期大学社会福祉学科1年生）

1. 12月クリスマス会参加の感想

- みなさんの前に出て、踊ったり歌ったりするのは、ちょっと恥ずかしかったのですが、みなさんが笑顔になったり、拍手をして下さったりしたので、自信を持ってみなさんの前でパフォーマンスをすることができました。
- みなさんの笑顔が見られて、とっても楽しかったです。
とても楽しかったため、ぜひまた参加したいと思いましたので、1月のMLAPも申し込んで参加しました。

2. 1月MLAP 超参加型音楽会の感想

- 障がいがある方と初めて会って、最初はどんなふうに、どんな雰囲気に関わったらよいのか分かりませんでした。
- 障がいがある女の子と一緒に歌ったり踊ったりして、最後には笑顔で握手もしてくれて、とても嬉しかったです。
- みんなと一緒に音楽活動に参加をして、歌や踊り、手話、楽器などをしながら、みんなの笑顔を見られて、とっても楽しかったです。
- 私はいつも高齢者施設でアルバイトをしているので、障がい者の方と交流する機会がなかったので、とても勉強になりました。
- 歌、音楽は、優しい気持ちになれました。
- 日本の歌を私も練習して覚えたいと思いました。
- 私は社会福祉会ボランティアサークルの部長で、手話サークルの部員なので、もっと手話の歌を覚えたいと思いました。
これからも、もっと色々なボランティアに参加をして頑張りたいと思いました。
障がいがある方々が手話を上手にしていたので、びっくりしました。
私は、有名なパプリカの曲を手話で練習して、みんなと一緒に手話の歌をやりたいと思いました。
パプリカの手話をすれば、みんなが面白くなり、楽しくなるかなと思っています。手話を頑張りたいです。

♪ 西園幸佑さん

(西日本短期大学在学中にボランティアで参加、現在障がい福祉事業所勤務)

音楽ビートのボランティアに参加して

2018年12月よりビートのボランティアに参加した。

初めは、子供たちとどのように接していけばいいのだろうかと考えた。

回数を重ねていくうちに子供たちも私達ボランティアの様子を見ている事に気づいた。

お互い少しずつコミュニケーションを取っていく事が出来たと思う。

この音楽ビートボランティアは私にとって貴重な経験になっていった。

これから働いていく上で必ず役に立つと思う。

多くの人が障がいがある人も私達と何も変わらない事を少しでも理解していけばより良い社会が出来ると思う。

私も少しでも伝える事が出来ればいいなと考えた。

♪ 松岡優利香さん(高校生：中学・高等学校在学中ボランティアで参加)

りんりんりんくす

大きなホールでの活動だったのでビートとは音の響き方が全然違い、いつもは感じられないような臨場感を味わうことができ、子供たちだけではなく保護者の皆さんや大人も楽しむことができていたと思います。ステージに立っていたけどホールのみんなが楽しそうに歌ったり踊ったりしているのを見て私自身も楽しかったです。

ゆっくりりんりん

ご高齢の方々と一緒に懐かしい歌を歌ったり、りんりんりんくすとは違った楽器を使っての演奏ができて初めて会った人とも交流できたと思います。りんりんりんくすと」違ったゆっくりなのでみんなと一緒に参加することがむずかしいような子供でもじぶんなりのペースで楽しめたかと思っています。

ビートン

子どもたちの成長を1年を通して感じられました。最初の頃は緊張してなかなか活動に参加できなかったり部屋に入れなかった子どもでも活動を繰り返していくと部屋に入って一緒に参加できるようになって楽器に触れたり、一緒に歌えるようになっていました。担当になるボランティアの学生さんは毎回違うけど楽しそうに活動して笑顔で帰る姿を見ると参加してよかったなと思います。

♪ 吉倉希衣子さん（社会福祉法人 玄洋会 昭和学園）

1月MLAP参加ボランティアの感想です。

初めて参加しましたが、総じて楽しかったというのが率直な感想です。

障害の有無や国籍、年齢に囚われず、参加者みんなで楽しめるのは音楽の魅力の一つでもあると思いました。

普段大きな声を出したり好き勝手に音を鳴らすのは良くないことだと言われがちですが、療育の中だとむしろ歓迎されて、自分を肯定してもらえる体験をすることができますと思います。

今回、ボランティアに参加したことで、音楽療法でどんなことをしているのか、

それがどのように作用していくのかを知ることができて良かったです。

どうもありがとうございました。

MLAP活動を通して

地域の人や障害を持つ人が共に参加できるドラムサークルやりんりんくすなどの音楽療法のボランティアに参加した。

この活動は、好きな楽器を自由にたたいてならしてみたり、ボランティアの私達がバルーンを上下に動かすとそこに入ったりしながら楽しんだ。

地域の人や障害児者の人とのコミュニケーションを行う環境作りの一環でこれは、両者の共生社会で必要な事だと考える。

今後を活かせる活動だと思う。

♪ 西日本短期大学学生

拍手をもらって自信を持って前に出て踊りなどができるようになった



MLAP 連携協議会委員の MLAP への想い（3年間を終えて）

♪ 福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長 梶原 美穂 委員 ♪

私が MLAP の実践研究に携わったのは最後の1年間のみで、コロナ禍において実際の音楽活動に参加することができなかったのが非常に残念でしたが、私自身、生涯学習について改めて学び、考える非常に貴重な経験をすることができました。

手をつなぐ育成会保護者会の下山会長をはじめ、音楽療法士でありコーディネーターの米倉先生、その他多くの皆さんの MLAP の活動に対する熱意とコロナ禍においてもひたむきに活動を続けられていることについて、いつも頭が下がる思いでした。

障がいのある人も障がいのない人も楽しみながら生涯学び、自立（自律）し、豊かな心を育み、みんなが自分自身とお互いを尊重し合う、共生社会につながる MLAP の活動が、今後、より充実し、普及していくことを期待しております。

今後の課題は、普及促進に向けた周知方法と財源確保だと思います。この3年間で作り上げたプログラムをより多くの場で活用してもらうための工夫と、今後の活動を継続していくために必要な財源の確保について検討の必要があると思います。

今年度で文部科学省の実践研究事業は一応完了という形になりますが、この3年間でできた繋がりを大事にしながら、ともに考えていけたらと思っています。

♪ 福岡市博多区保健福祉センター 福祉・介護保険課長 牟田 智佳 委員 ♪

音楽を通じて障がい者の可能性が広がる様子をたくさん目の当たりにして、驚きと感動と共に、生涯学習が掘り起こす人間の底力に期待と希望を実感しました。さらに、指導者や支援者をはじめご家族や地域の方々も、楽しみ、理解を深め、成長していくことを知り、是非とも身近な地域で広げ、継続していきたいと強く思いました。

シンポジウムや報告会を通じて、一人一人が自ら「私もこういうことができますが、何か一緒に活動

することがありますか」と表明されたのは本当にうれしいことでした。

障がい児・者やご家族の方たちが、もっと自分たちを知ってほしい、自分たちも一緒にやりたいと、いろいろな活動に出かけていけるといいなと思います。

障がいや疾病等の有無に限らず、性別や年齢、国籍等、様々な違いや特性を互いに知り、認め、つながり、関係が続いていくことが、人としての尊厳にもとづく共生社会の実現につながると信じています。

♪ 福岡市発達教育センター所長 諏訪原 佳子 委員 ♪

○感想

「音楽は世界共通の言語である。」「音楽に国境はない。」という言葉に耳にすることがあります。今年度 MLAP にかかわらせていただいて、それを実感しました。

障がいの有る無しに関わらず、生活していくうえで、自立し社会とつながることはとても重要です。「つながる」と言葉で言うとは簡単ですが、実際はそうではありません。

MLAP では音楽を通して自信をつけること、周りにつながることができるということを示していただきました。音楽を通して、楽しさを共有し、体験を積み重ねていくことで、お互いを知ろうという気持ちになり、そこからつながっていくのだと思います。

1年間でしたが、大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

○課題

今後、より多くの人に、まずは知ってもらうことが必要だと思います。そのためには、学校、公民館など、地域を巻き込むこと、そして、動画配信なども活用し、誰もが参加しやすい環境を整備していくことだと思います。

○展望

あちこちで、MLAPの活動が実践され、地域の中で障がいのあるなし、老若男女問わず、声を掛け合うことができる、音楽を通してお互いを高めていくことができる世の中になってくれることを期待しています！



♪ 福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長 氷室 剛 委員 ♪

1) 総まとめ（感想）

音楽活動をテーマとした MLAP ですが、参加した障がいのある方々が楽器を鳴らし、声をだして、いきいきと自由に体を動かし、楽しそうに音楽会に参加している姿が印象的でした。

障がいのある方、その家族、運営をされる方、支援をする方とさまざまな人が一緒に活動する場として貴重な取組みになったと感じます。

2) 課題

このような取組みを、現実可能なものとして、どのように続けるのかが課題となります。

経費がかかる取組みになると継続性が難しくなりますが、音楽を取り入れるMLAPのような取組みを地域のさまざまな既存の活動の中に取り入れ、実践していければ、いろいろな広がりができるかもしれません。

3) 展望

「生涯学習」は生きがいづくりや社会参加を促す有効な手段として考えられます。障がいの有無に関わらず、地域に住む誰もが気軽に参加できる「生涯学習」として広がっていくことを期待します。

♪ 福岡市立屋形原特別支援学校長 日高 徹 委員 ♪

1) 総まとめ（感想）

下山さん、米倉先生はじめ最前線で実働をしていただいた協議委員の皆様やムラッパーの皆様、本当にお疲れさまでした。3年間継続できたのは、皆様のおかげだと心より感謝しております。ありがとうございました。

さて、3年目となる今年度は、新型コロナの影響で実働ができなかったこと、とても残念です。我々学校も青年学級の活動や高等部の学習に取り入れることができるのではないかと話題にしていただけに、実行できなくて残念です。

3年目に実行できなかったことについては、今後の課題として、来年度以降具現化できるようになればと思います。

コロナに泣かされた1年間でしたが、リモートや動画配信での取組みができたのは、こういう状況だったからではないかと、コロナ禍におけるプラスもあったのではないかと考えています。

MLAPのコンセプトは素晴らしいと思います。今後、一人でも多くの人にMLAPを知ってもらえるように、この活動が続くことを祈念しています。

2) 課題

MLAPの活動や内容には大きな課題はないように思います。

2年目の総括でもおはなししましたが、いかにしてMLAPをアナウンスするか、多くの人に知ってもらえるかが、これまでの課題でしたし、今後の課題でもあらうと思います。

コロナ禍の中では難しいと思いますが、小さな集まりからでもいいので、できるだけ多くのリアル活動を行うことは大切だろうと思います。

また、動画配信等については、より多くの肩にアクセスしてもらえるように、チラシや各種お知らせ等にアドレスやQRコードをこまめに載せると効果が期待できるのかなと思います。

3) 展望

MLAPは体験してもらえば必ず輪が広がると信じています。

いかに多くの人に知ってもらい、体験してもらえるかが、今後の展望のカギだろうと思います。

3年間関わったのも縁だと思えます。微力ではありますが、何かお役に立てそうなことがあればお声かけください。

これからのMLAPの活躍と拡がりを期待しています。

♪ 福岡市立東福岡特別支援学校長 野口 信介 委員 ♪

1 総まとめ（感想）

MLAPは、音楽の持つ特性を最大限に生かしながら、参加者の実態に応じたイベントを実現するプログラムを開発し実践を積んできている。このプログラムは、障がいのある方が音楽を楽しむ機会を得られると共に、人と関わる喜びやスキルを身につけられるようにしていることに意義がある。また、参加者の実態に応じて参加の仕方を選択できるため、障がいの有無にかかわらずイベントを構成することができ、共生社会の形成に寄与できる活動となっていることにも価値がある。

今年度は、コロナ禍における対応となったがYouTube 配信等で活動のバリエーション、教材開発の可能性について検討するよい機会となった。社会性を培う上では、集合型で活動を共にすることが大切であると思われるが、気軽に音楽に触れるという点では映像等の配信の効果は高い。今後は、個で楽しむ活動と集団で楽しむ活動を有機的につなぐことで、より効果的なプログラムの構築が期待できるのではないかと考える。

2 課題

参加者を増やす広報戦略、協力機関の開拓、行政との連携による安定した運営

3 展望

- ・ 公民館との連携による活動場所や活動機会の拡張
- ・ 生涯学習の観点から、卒後に繋ぐ学校における映像教材等の活用や体験活動の実施
- ・ 行政と連携し行う、生涯学習の場の拡充

♪ 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長 小山 浩俊 委員 ♪

1. 感想、まとめ

MLAP の活動は、特に下記の点で、有効かつ意義ある実践であると感じています。

① 「音楽」というツールの強みを活かした活動

→言葉や思考を越えて楽しむことができ、自然にそこにいる人と場を共有できたり、一体感を感じられる。

② それぞれの参加の仕方で、本人主体で参加ができる

→参加者が評価をされたり、活動への積極的参加を強制されたりすることがない。また、音楽の上手・下手などに関わらず誰でも参加ができ、自分なりの感じ方や表現が自由にできる。

③ 「障がいのある人」と「障害のない人」それぞれに変化をもたらす

→「実際に関わり、一緒に何かを楽しむ」というかけがえのない経験を通して、障がいの有無に関わらずボーダーレスにつながれることが、MLAP の魅力だと感じています。活動に関わった学生が「活動を通して障がい者のことを知り、考え方が変わった」と話していたことは印象的。障がいのある方も、参加を通して表情や言動が変化していくなど、参加した人それぞれに良い影響・変化がある取組み。

④地域共生社会につながる豊かな取組みである

→障がいのある方にとっては社会参加や豊かな地域生活へつながる機会になり、障がいのない方にとっては障がいへの理解が広がる機会になる。また、活動の中で（希望をする人は）前に立って主役になれる場があり、「誰もが役割・出番のある社会」づくりにもつながっている。

2. 課題

- コロナ禍において、「直接の人と人との交流」が難しくなっていることは(他のボランティア活動等と同様に)大きな課題です。動画配信など新たな工夫・活動によって、新たなアプローチもできた一方で、集まるのが難しくなり、MLAPの「良さ」「強み」を十分に発揮できない今の社会状況は大きな壁になっていると感じます。
- 地域で暮らす多くの住民にとって、障がいのある人と関わる機会や、障がいについて知る機会はまだまだ少ないと感じます。そのような中で、MLAPの取組みには期待と可能性を感じていますが、活動を維持していく基盤(実施メンバーの体制、活動資金、広報・周知など)が不安定であることもあり、なかなか活動の場がうまく広がっていかない面があります。
- 地域共生の取組みとして広げていく上では、音楽療法の知識やノウハウ等に加え、参加者が「させられている」と感じないような適度な投げかけ・距離感で場をまわしていく配慮など、実践者に技術的なスキルがかなり求められる活動であると感じています。実践の機会(回数やエリア)を広げていくのであれば、活動を中心的に実践できるメンバーの育成が課題であると思います。

3. 展望

MLAPPERSの中心メンバーが今後どのように活動していきたいと考えているか、その思いが一番大切ですが、もし今後、地域の様々なところへ活動の場を広げていくのであれば、私達社協が持っている地域とのつながりを活かし、協力できることがあると思います。例えば、活動内容や超参加型音楽会の開催の依頼を受けていることを発信するツール(出前講座のチラシのようなイメージ)を作成していただくと、私達も地域の方々に活動を紹介しやすくなり、実施の機会も広げていきやすくなると思います。その他、SNSやホームページなどオンラインでの発信も今後は有効であると思います。

身近な地域に、MLAPのような場が当たり前になり、多様な人々が参加して自然に関わり合ったりつながったりしている…そんな社会になれば良いと願っています。

♪ 西日本短期大学社会福祉学科教授 一山 幸子 委員 ♪

1. 総まとめ(感想)

■ ボランティア学生の感想

- 1) MLAP参加者のみなさんの笑顔が見られて元気が出た
- 2) 人前に出て踊りなどをするのは心配だったが、みなさんから拍手をもらって、自信を持って前に出て踊りなどをすることができるようになった
- 3) 障害がある方と初めて関わり勉強になった
- 4) 最初は緊張してどのように接したら良いか分からなかったが、子どもたちとビートンなどの体験を重ねていくうちに、お互い楽しく参加できるようになった
- 5) 担当の子どもが踊って見せたり手を握ってくれたりして、とても嬉しかった
- 6) もっと日本の美しい歌を覚えたいと思った

- 7) もっと手話の歌を覚えたいと思った
- 8) とても楽しかったのでまた参加したい、もっとボランティアに参加したいと思った
- 9) MLAP での和太鼓演奏は最高だった
- 10) 人の役に立つものならば、もっとたくさん頑張りたい、できることを増やしたいと思った
- 11) 就職してからも、この経験が活かせると思う

■ボランティア学生の変化

- 1) 学生達は学びたい、色々なことを体験したい、知りたいと希望している。
したがって、MLAP の音楽体験、人との関わりが楽しい思い出となり
自信を持つことができるようになる、学習意欲やボランティア意欲、やる気の向上につながった。
- 2) 自分自身も「むらっぱー」になりたい、さらに「むらっぱーを増やしたい」という気持ちになり、自分だけでなく他のクラスメイトや後輩たちにボランティアはとても楽しいし勉強になるから一緒にしましょうとメンバーを呼びかける行動が起こっている。
また、手話の歌を発表したい、手話歌の動画を作りたいなどという新しいことに挑戦する力が育っている。
- 3) MLAP の音楽活動体験及びボランティア養成講座によって、学生達はボランティアを体験しながら関わり方や障害等の知識・技術を学び体得していく。MLAP は、貴重な人間教育の場であると考えている。

■ご近所応援団、地域の方々の感想

- 1) MLAP に参加をして、誰でも楽しめる音楽活動を地域の活動（ふれあいサロン等）でも、ぜひ取り入れてやってみたい。（民生委員さんより）
- 2) 子どもが保育園の音楽発表会の練習で嫌な思いをしており、楽器がある集まりを見るだけで逃げたり泣いたりしてしまう。させられると感じると逃げて嫌がる。音楽は大好きなのに。MLAP の動画を見たりしながら少しずつ参加できたらと思っている。
保育園にこそ MLAP が必要ではないかと思う。（発達障害がある子どものお母さんより）
- 3) 動画を見て、オーシャンゼリゼに合わせた体操はユニークです。音楽は誰の心にも飛び込んできて、人に活力とエネルギーを与えてくれるものです。（元気塾 塾長さんより）

2. 課題

- 1) MLAP を継続していくための場所、資金
- 2) MLAP の周知方法
- 3) MLAP につながりたい人たちのつながり方

3. 展望

1) MLAP の参加申込は、「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」でできることを周知する。

手をつなぐ育成会事務局、Facebook、MLAP 連携協議会委員、社会福祉協議会、公民館、西日本短期大学他関係大学、ご近所応援団、福祉施設、学びあいネットなどから MLAP の情報を発信する

2) 福岡市・福岡県社会福祉協議会にボランティア登録をする

3) 誰もがつながることができるアプリを活用する（山本先生作成）

♪ 西日本短期大学社会福祉学科助教 山本 恭大 委員 ♪

1) 総まとめ（感想）

今回、技術担当ムラッパーとして関わらせていただきました。

3年のうち、最終年からの参加でしたが MLAP がコロナで進化する瞬間に立ち会えたと思います。

YouTube の活用や、映像素材としての MLAP は、コンテンツとして非常にレベルの高いものだと思います。

MLAP の一番大切な根幹が現場での即興やリアルな反応にあると思いますがそこにたどり着くための導入やきっかけとして YouTube は相応しいと思いました。

動画の編集を自宅で行っていた時に、年長の子どもが「はっろーこんにちは」と歌いだし

「ムラップっていうんでしょ、いつか行ってみたい」と言ってニコニコしていました。

普段から、音楽にふれて、そこに参加してみたいと思う。まずは、だれでも親しめる音楽や身体活動として、YouTube で先行していくのも、一つの手段だと思います。

2) 課題

MLAP の良さを広めるためには、リアルの現場は欠かせません。

- 理解のある施設
- 現場に行きたいボランティア

この両方に対して、同時に協力してもらう必要があると思います。

今、私が関わっている「スケッター」という仕組みは、介護の現場とボランティアをマッチングするサイトです。この、仕組みをうまく活用できれば、MLAP を広めることができると思います。

【例】

施設は、「スケッター募集：音楽療法を用いたレクリエーションをおこないます。お手伝いの有償ボランティアを5人募集します。費用は1人2000円（交通費込み）」等募集を掛けます。

現場での音楽療法はMLAPERSが行います。

もともと、スケッターに登録している人達が条件を見て応募してきます。その人たちは、音楽療法と福祉に興味を持ったMLAPERSの原石のような人たちです。MLAPの活動に感動しないはずがありません。

実際、このようなボランティア募集から正職員への登用も多くみられているので関東や関西ではスケッターは、口コミでじわじわと広まっています。

3) 展望

オンラインサロンで活動費用を捻出しスケッターを使って、場所と人材を開拓していく。

MLAPは、仕組みとして2021年中にシステム化、法人化できると思います。

♪ 地域生活ケアセンター小さなたね所長 水野 英尚 委員 ♪

「MLAP2020」の委員の一人として、関わらせて頂きました。

「超参加型音楽活動 MLAP」このネーミングを聞いただけで、なんだかワクワクと楽しくなるような気がしています。

この一年間はまさに「コロナ禍」にあり、私たちが支援する人口呼吸器等の「医療的ケア」のある人たちにとっては、生死に関わる課題でありました。そうした中、MLAPの活動に参加することもままならず、委員として何もできないまま過ぎてしまいました。

しかし、プロジェクトチームリーダーの下山さんや米倉さん、それぞれの分野でスペシャリストな委員の方により、実行力をもって進んで行かれる姿は頼もしい限りでした。

「お互いを尊重し合える共生社会」の願いに向け、こうした取組みが今後は益々必要とされることを思います。それぞれの場所で、継続した活動となることを心から願っています。皆様、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

♪ 福岡市立城南障がい者フレンドホーム生活指導員 清家 信二郎 委員 ♪

1) 総まとめ（感想）

本年は全く携わることができませんでした。

こうした中で、ひまわりの里での実施や、you tube での動画配信は目を見張るものがありました。参加された方やご覧になられた方々は喜ばれたことでしょうね。

創意工夫をされ、コロナ禍でもたたでは起きない MLAP の強さを感じました。

報告会にせめて参加させて頂けて良かったです。米倉先生はじめ発言者の皆様の内容が本当に素晴らしかったです。また何より会の組み立てが良かったですね。ご準備本当にお疲れ様でした。

2) 課題

連携協議会が本年度で解散することになると思いますので、協議会の方々との関係性がこれまでよりは希薄になるだろうと思います。今後も第三者を入れた運営委員会等の定期委員会を開かれると良いのではないかと思います。

3) 展望

これまで3年間の種蒔き、いえ、20年以上の実績がおありですので、これまで同様地道に粛々とプロジェクトを進めて行くことが肝要かと思われます。

現在のコロナ禍での発展は極めて難しいことであると思いますので現実的ではありませんが、福岡市にとってメジャーであるイベントに食い込んでいくことができればと思います。

例えば博多どんたくの特設舞台に出演するものです。仲間を募って出演すると良いのではと思います。

ご存知かと思いますが、福岡観光コンベンションビューローのサイトで催事の一覧を閲覧できます。

♪ 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定共同生活援助事業

早良ひまわりハウス施設長 竹内 巖 委員 ♪

MLAP について

(1) MLAP 実施の中で参加できたのは、障がい者スポーツセンターで行われた交流会と今年のシンポジウムでした。実践内容と理念についてシンポジウムを通して、その素晴らしさを再確認しました。

(2) 課題

コロナ禍で実践がしにくい状況の中、コロナ禍が落ち着いてもその実施していくことの大事さと大変さを感じます。

(3) 展望

参加された方々の喜ぶ姿を拝見して、積み重なっていくことで定着していくのではないかと思います。

♪ 社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会指定障がい福祉サービス

ひまわりパーク上牟田施設長 吉富 孝史 委員 ♪

MLAP の活動について

ある一つの出会いが人を変える。それは人であったり物だったり、風から受ける刺激や、鼻孔をくすぐる香りもそう。直接的に指、身体に触れることで得た感覚もそう。そして音楽もそう。

ある一つの出会いが人生を変えるきっかけになる。人を変えることは人生そのものにも深く影響していく。そんなある一つの出会いにより人生が豊かになる。人は生まれ落ちた瞬間から生涯を終えるまでに様々な経験をしていく。その中で得たものを選択していき、自分らしさの人生を作っていく。家族との何気ない会話や毎日食べる食事の嗜好もそう。そう音楽も選択する。

少しずつ音楽に結び付けてきましたが、皆さんにぜひ一つの出会い、一つの経験の中に MLAP を感じる機会を得て欲しい。

私は障がい者施設に従事しています。MLAPとは当事業所でのイベントで出会い、その後も法人のイベントやクリスマス会など2回、3回、4回・・・と経験を重ねる機会を得たとてもラッキーな人間です。豊かな人生です。

音楽療法とは音楽を通して身体的、精神的、認知的、社会的に影響を与えるものでひいては共生社会の実現へもつながるものです。実際に私が体験した経験をします。

まず、イベント前に「年齢層、障がい特性を教えてください。」とここまでほうんうん。懐メロいいよね。振付も運動になっていいよね。といったところでした。ところが次に「参加者の氏名を教えてください。イベント後、情報は返却します。」とのこと。そうです。個人個人が主人公になる場面があったのです。中央に出て思い思いに選ばれた楽器を披露する。照れる方やときには勇ましく披露する方も。なんて楽しいのだ。という雰囲気傍ら、イベントを終えるまで不安を抱いていたのも事実でした。

なぜなら当事業所には視覚や聴覚に障害を持たれている方がいました。彼らは普段はとても穏やかな方々です。ところが音楽活動をすると思った途端、人が変わったように険しい表情になり「私の障害をしていますか。今まで音楽で楽しいと感じたことがない。今回も期待はしていない。」と大きく主張されたのです。私は顔では笑ってMLAPに「よろしくお願いします。」と丸投げで無責任に依頼

したのを覚えています。

そんな方々もイベントの進んでいく時間の経過とともに心がほぐれ次に顔がほぐれ、最後には大きな拍手をしてアンコールを求め、感涙までされました。

2回目は身体全体で感じることのできる大きな太鼓の演奏や、また本人の年齢を加味した懐メロ手話ソング等も取り入れてくださいました。言わずもがなのとりこになっていくご本人たちを悔しながらもとても満たされた気持ちで眺めていたのを思い出します。

支援とはなんぞや。よりよい生活を目指してという大きな森のなかで暗中模索になっていた自分を目の前の草花を見るよう立ち返らせてくれました。

その後、当事業所の地域の方々との交流会にも来ていただきました。毎年実施している交流会でカラオケ等を企画して交流という場を設けていたのですが、マイクの数に限界と交流の発想の限界を感じていました。

そんななか明るいトレードマークの赤シャツMLAPの登場です。当事業所の利用者は経験済みのスーパースターMLAP。地域の皆様も大盛り上がりで楽しんだことは言うまでもありません。共生社会がそこにはありました。

ある一つの出会いが人を変える。MLAPの活動や対象の幅は限りなく、想いは皆が共有でき、なおかつ皆が触れる機会を持ってほしいです。

今後の展望としては体験者の求める思いが広まるのを期待するのは当然のこと、障がいのあるなしの垣根を超えたものであり、公民館での活動や学校関係へのアプローチだけではなく、院内学級や乳幼児、保育園へと触れる機会を広げていって欲しいです。音楽療法を体験する本人はもとより、同じ思いをもつ方々が集うことで新たな交流を生む第二の影響も期待します。



♪ DCFA 協会員ドラムサークル福岡主催者 天野 英樹 委員 ♪

「なかなか参加できませんでしたが可能性を感じた 3 年間でした。できると信じれば、多分できるような気がします」

♪ DCFA 協会員ドラムサークル福岡メンバー 前田 かわり 委員 ♪

MLAPの活動にて、一番に感じたのは、参加された皆さんの笑顔がとても生き生きしていたことです。

垣根のない場所や活動を、音楽を通じて作りたいと言う思いがすごく伝わり、私も関わっているドラムサークルの世界と同じですぐに受け入れができましたし、ご一緒できたことは、とても良い経験をさせていただきました。

また二俣先生の貴重な学びの場も参加できましたこと感謝しております。

♪ 音楽療法士 精神保健福祉士 近藤 綾子 委員 ♪

MLAP3年目を終えて…。

日々、少しずつではありますが、私たちを取り巻く環境は変化しています。

MLAP3年目は新型コロナウイルスの影響で、これまでの当たり前とされていた事が出来なくなりました。様々な面で試されているのではないかと思う事もあります。しかし、試行錯誤しながらもMLAPの活動を継続して頂いた事に感謝をしております。

MLAPは障がいをもつ・もたないに関わらず、生涯に渡り音楽を通じて何気ない毎日が過ごせる。そんな素敵な取り組みです。

私自身、十分にお役に立てず申し訳ありませんでした。

このMLAPの活動に携わらせて頂き、ありがとうございました。

♪ 学識経験者 日隈 富貴雄 委員 ♪

音楽が持つ可能性は明確だと思っています。1つの取組としてMLAPがあったと思います。中味が充実して来ているけど周りに広がらない課題をどのように乗り越えるか。そこだけだと思います。支援する側も、障がいのある人の自立と言う視点をもっと持たないと、自分から楽しむ・参加する、と言う動きには繋がりません。してもらっている、してあげている、の感覚が抜けないと、共に生きるになりません。

♪3年間ありがとうございました♪

♪お疲れ様でした♪



博多音楽療法コミュニティ LINKS

♪ 音楽療法士 押本 恵 さん ♪

コロナ禍の中で、音楽ができることを考えさせられた一年でした。リモートでも出来ることはありますが、やはりその場に集まった人が、同じ響きを感じ、その空間に一体感が生まれることが音楽療法の効果の一つと考えています新しい生活様式とともに、もう一度音楽療法に求められることを見直してたいです。

♪ 音楽療法士 川嶋 茉莉子 さん ♪

本年度は自分の都合で参加できない事が多かったです。
しかし、コロナ禍の中、リモートでの会議や動画作成などでソーシャルディスタンスを取りながら、話したり伝えることができる手段を学ぶことができました。

♪ 音楽療法士 古賀 朋香 さん ♪

MLAPのプロジェクトが3年目ということで、生涯学習としての音楽を用いたコミュニティの広がりを期待していました。しかし、状況は変わり、活動自体に制限がかかり、困難な面がたくさんありました。ですが、ニーズがある分、形を変えてお届けできたのではないかと思います。また、この1年を次につなげ、タイムリーな音楽でみんながつながり、共生社会実現しながら、私自身も楽しみながら、再び活動に参加させて頂きたいです。

♪ 音楽療法士 近藤 綾子 さん ♪

MLAPは3年目を迎えました。コロナウイルスの影響で大きく状況が変化しました。その中でも、できる事を模索し、取り組んで頂いた事に感謝しております。

♪ 音楽療法士 柴田 佳代子 さん ♪

今年度はコロナウイルスの影響で、3年目にして今まで行ってきたことを活かした活動を行うことが困難であったと思います。

その中でリモートでの会議や動画を用いた活動を提案するなど、今の状況ならではの活動を見つけることが出来たのは、今後の活動を行う上で良い経験になったと感じました。しかしそれと同時に、やはり直接会って相手の反応を直に感じながら活動を進める大事さについても改めて感じる事ができました。この3年間の経験を活かし、今後もそれぞれのニーズに合った活動を展開していければと思います。

♪ 音楽療法士 中田 哲也 さん ♪

MLAPに参加して、自分自身も楽しめた。その時その場にいられる参加者のために、即興的に内容を調整することは大変なことだが、それもスムーズに出来たのではないかと思う。コロナ禍のため、能動的な活動を控えざるを得なかったため、計画通りいかない方が多かったが、考え得る手段にて、代替できたのではないかと思う。

♪ 音楽療法士 野田 恵美 さん ♪

今年度は、参加することができませんでした。働いているところからの申し入れと、リモートになると家の者が一緒にいるので参加が難しかったです。

リアルタイムでの音楽活動が望ましいと思いますが、リモートでの音楽活動の方法ももう少し考えていく必要があると思います。

♪ 音楽療法士 松宮 仁美 さん ♪

今年度は参加することができませんでした。特別支援学校の現場の音楽もいろいろと模索する一年でした。来年は何とか参加できたらと思います。

♪ 音楽療法士 米倉 裕子 さん ♪

YES! MUSIC! YES! LIFE! YES! MUSIC! YES! MLAP!



2020 連携協議会開催報告

第1回連携協議会

日時：2020年 6月 29日（月）18：00～20：00

場所：福岡市市民福祉プラザ 502研修室

司会：下山 いわ子

内容：今年度の活動計画について・実践研究3年目の目標達成について

第2回連携協議会

日時：2020年 11月 4日（水）16：00～18：00

場所：福岡市市民福祉プラザ 602研修室

司会：下山 いわ子

内容：新委員紹介・シンポジウムについて・活動経過報告・実践研究経過報告・
本事業終了後について

第3回連携協議会

日時：2021年 1月 7日（木）14：00～15：30

場所：福岡市市民福祉プラザ502・503研修室、オンライン、会場参加併用

司会：下山 いわ子

内容：シンポジウム報告・報告会について・文部科学省からの問い合わせの回答について・
今年度の実践報告・今後の連携協議会

第4回連携協議会

日時：2021年 1月 25日（月）18：00～19：30

場所：オンライン

司会：下山 いわ子

内容：実践や視察報告・モデル化したプログラムの確認・連携モデルの構築確認・報告書・
ポンチ確認・事業終了後についてまとめ確認・終了後も実践継続を可能にするため
の方策・報告会最終打合せ・事業終了後について



連携協議会構成員



米倉 裕子	MLAP コーディネーター・音楽療法士
梶原 美穂	福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課長
牟田 智佳	福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長
諏訪原 佳子	福岡市発達教育センター所長
氷室 剛	福岡市保健福祉局障がい者部障がい企画課施策企画係長
日高 徹	福岡市立屋形原特別支援学校長
野口 信介	福岡市立東福岡特別支援学校長
一山 幸子	西日本短期大学社会福祉学科教授
山本 恭大	西日本短期大学社会福祉学科助教
小山 浩俊	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長
水野 英尚	地域生活ケアセンター小さなたね所長
清家 信二郎	福岡市立城南障がい者フレンドホーム生活指導員
近藤 綾子	音楽療法士 精神保健福祉士
天野 英樹	DCFA 協会員 福岡ドラムサークル主宰者
前田 かおり	DCFA 協会員 福岡ドラムサークルメンバー
吉富 孝史	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定障がい福祉サービス ひまわりパーク上牟田施設長
竹内 巖	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会 指定共同生活援助事業 早良ひまわりハウス施設長
日隈 富貴雄	学識経験者
山崎 順子	知的障がいのある当事者
牛丸 健児	知的障がいのある当事者
下山 いわ子	福岡市手をつなぐ育成会保護者会長



文部科学省総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課

2020年「障がい者の多様な学習活動を総合的に

支援するための実践研究」参画事業

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MUSIC with LIFE for ALL PROJECT

M L A P

(ムラップ)

2018年度～2020年度

障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための

超参加型の音楽活動を軸とした実践研究

2021年3月 発行

編集人 米倉 裕子

発行人 下山 いわ子



福岡市手をつなぐ育成会保護者会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ4階

TEL 092-713-1480

EMAIL hogsha@fiku.jp